

子どもの健康と環境に 関する全国調査 (エコチル調査)

活動報告書

令和6年度



エコチル★ふくしま

Eco&Child Fukushima

福島県立医科大学
エコチル調査福島ユニットセンター

目次

あいさつ 福島ユニットセンター長 橋本浩一	2
1 エコチル調査の概要	4
(1) 調査の目的	4
(2) 調査の内容	5
(3) 調査のスケジュール	5
(4) 福島ユニットセンターにおける調査概要	6
(5) 13歳以降の調査継続	7
2 調査の実績	8
(1) 全体調査の実施	8
ア 質問票調査	8
イ 学童期検査	9
ウ 乳歯調査	12
エ 疾患情報登録調査	13
オ 13歳以降調査	13
(2) 詳細調査の実施	14
(3) ゲノム・遺伝子解析研究	17
(4) 感染症対策	17
(5) 参加者への謝礼のお支払い	18
3 調査推進のための各種活動	20
(1) 広報・イベント活動	20
(2) 地域運営協議会	27
(3) 関係機関訪問	28
(4) 各種研修の実施	28
4 学術研究	30
5 資料編	35
令和6年度福島ユニットセンター組織図	35
エコチル調査福島ユニットセンターの沿革	36
エコチル調査協力医療機関・施設一覧	37
エコチル調査に係る業務全般に関するPDCAサイクルにおける取組状況	41
ニュースレターの発行	50

あいさつ

エコチル調査福島ユニットセンター
センター長 橋本 浩一

～正念場を迎えるエコチル調査～

日頃はエコチル調査にご理解、ご協力を賜り有難うございます。

平成 23 年 1 月に開始されましたエコチル調査は 15 年目に入っています。開始当初は 13 歳までの実施予定でしたが、40 歳に至るまで継続することが決定され、現在、調査対象のエコチルキッズは 11 歳から 14 歳となりました。福島ユニットセンター（UC）では出生数の約 92%にあたる 11,824 人が継続参加されています（令和 7 年 3 月現在）。改めまして、参加者、関係者皆様のご理解、ご協力に感謝申し上げます。ここに令和 6 年度のエコチル調査福島 UC の活動状況を報告いたします。

“正念場を迎える対面検査”

対面調査として全対象者の 5%を対象とした詳細調査（医学的検査）と全員を対象とする学童期検査を実施しています。

詳細調査は 2 歳から 2 年毎に県内の 38 か所の小児科医療機関にご協力いただき約 600 人の児を対象に実施してきました。令和 6 年度は令和 5 年度に引き続き WISC 知能検査を含む 10 歳の調査を進めました。小学 2 年生、6 年生の時に実施する学童期検査は令和 5 年度からは 6 年生を対象として実施してきました。検査項目に血液検査、皮膚観察が追加されたため、医療機関にご協力いただき実施しています。令和 5 年度、令和 6 年度、令和 7 年度、令和 8 年度、それぞれ全県下で 915 人、1,959 人、5,536 人、2,837 人が対象者となります。これまで学童期検査には 40 か所の小児科医療機関（13 病院 + 27 個人医院）から協力の意向を示していただき実施しています。しかし、多忙な協力機関での効率性、参加者の利便性を考え、通常の外来での個別実施に加え、令和 7 年度からは県内各地域での医療機関での集団健診方式で実施できるよう準備を進めました。

“コミュニケーション活動”

主役の子ども達にエコチル調査への関心をさらに持っていただき、県民の皆さまへの周知を目的に“顔の見える”様々なイベントを開催、そしてブース出展をしています。参加者対象イベントとしては 7 月 7 日には猪苗代町の国立磐梯青少年交流の家にて“会津漆 蒔絵体験にチャレンジ！”を開催しました。また、2 月 15 日には、郡山市にある体験型学習施設に併設された富久山クリーンセンターにて参加者の親子と共に学ぶ環境セミナー「ごみ減量や気候変動対策」をテーマに開催しました。一般の方も参加可能な活動として、10 月 20 日には郡山市のカルチャーパークにて“エコチル★ふくしま おやこでダンス教室”を開催しました。これらのイベントの一部は活動の様子を動画配信しています。また、5 月 5 日には郡山市の“子どもまつり”、さらに 11 月 10 日に会津若松市での“いきいき健康づくりフォーラム”にはブース出展し多くの方々にご来場いただきました。

“ 成果の発信 ”

調査、研究である本出生コホート調査の目的は、確かなエビデンスを社会に還元することです。全国 10 万組の母子からのビッグデータによりエコチル調査関連の論文が数多く執筆されています。福島 UC では令和 6 年度は学術ワーキンググループのメンバーが 11 通（英文累計 74 通）の英語論文を発表しました。当 UC を含めエコチル調査からの発表論文は当 UC、あるいは環境省のホームページからご覧いただけます。

“ 社会への還元 ”

最近、プレコンセプションケア（Preconception care）の重要性が説かれています。プレコンセプションケアとは将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うことです。当 UC も含めエコチル調査全体からも関連する論文が多数発表されています。令和 6 年度は当 UC の産婦人科医師により、一般、母子保健関係者、高校生を対象にエコチル調査からの知見をもとにプレコンセプションケアに関するセミナー、出張授業を県内各地で開催しました。

“ 3 世代コホート研究への課題 ”

40 歳を目途とする、「両親・本人・本人の児」の 13 歳以降の調査が令和 6 年度から本格的に開始されました。これまでは保護者のご理解と熱意に支えられてきたエコチル調査ですが、13 歳以降の参加継続は児の意思が尊重されることとなり、これまで以上に子どもたちの本調査へのご理解、ご協力が重要となると同時に大きな課題です。さらに成人への調査の展開により内科医療機関との協力体制の構築が課題となります。

今後エコチル調査は、成人領域、そして両親・本人・本人の児の 3 世代コホート研究へ発展していきます。本調査から得られる果実がより大きくなることが期待されます。今後とも、関係者の皆さまの御理解と御協力のもと参加者とともに一步一步あゆみ続けて行きたいと存じます。よろしく申し上げます。

令和 7 年 6 月

1 エコチル調査の概要

(1) 調査の目的

●エコチル調査とは

正式名称は「子どもの健康と環境に関する全国調査」です



エコチル調査は、環境省が企画・立案し、コアセンター（国立環境研究所）、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）を中心として、全国 15 地域に拠点としてのユニットセンターを設置し、実施している全国的な調査事業です。

環境中の科学物質や生活習慣などが子どもの健康や成長にどのように影響するのかを胎児から 13 歳になるまで追跡調査し、明らかにすることを目的としています。

平成 22 年から開始し、分析を含めると 20 年を越す事業ですが、未来に向け「子どもたちが安心して健やかに育つ環境をつくる」ために、大変重要なプロジェクトです。

●なぜ環境中の物質を調べるのでしょうか

ここ 50 年の間に、科学や技術は急速に発展し、私たちの暮らしはとても便利になり、またこれに伴って、様々な化学物質が身近に増えてきました。こうした人間が作り出した物質が、私たちや子どもたちの健康に、どのような影響や関係があるのか、実はまだ詳しく解明されていないのです。

●なぜ赤ちゃんがお腹にいるときから調べるのでしょうか

近年、ぜんそくやアレルギー疾患、肥満、発達障害などが、子どもたちに増加していると言われています。こういった事象から、子どもは成長段階にあり、大人より化学物質の影響を受けやすいのではないかと考えられるからです。

赤ちゃんがお腹の中にいるとき、お母さんの体には、貴重な情報がたくさんつまっています。子どもの病気が明らかになってからでは、その情報の多くが失われてしまっているのです。

●研究成果は子どもたちや次世代の人のために役立ってます

病気の多くは、遺伝的な性質、生活習慣、環境中の物質などが関係しあって起こります。これらの関係を明らかにすることができれば、病気の予防に役立つ政策を立てたり、子どもが健やかに育つための環境を整備したりすることができます。

子どもたちや次世代の人に健康で豊かな生活をおくってもらうために、今から対策を考え、問題があればそれを改善していかなくてはなりません。エコチル調査は、将来の人たちの健康づくりのために、大変大切な研究です。

(2) 調査の内容

13歳になるまでの調査

全体調査	◆質問票調査	妊娠中及び年2回13歳になるまで成長、健康、生活の様子について調べる
	◆学童期検査	小学2年生と6年生のお子さまを対象に成長や健康について調べる
	◆乳歯調査	小学4年生のお子さまに乳犬歯を提供いただき化学物質を調べる
	◆疾患情報登録調査	質問票の回答より、エコチル調査が対象とする疾患をもつお子さんが治療を受けた医療機関の診断または治療の情報について調べる
詳細調査	◆環境測定	家庭内の化学物質やハウスダストなどを調べる
	◆医学的検査	子どもの健康状態や、成長・発達・アレルギーの体質などを調べる
	◆精神神経発達検査	専門の検査者などにより子どもの発達を調べる
ゲノム・遺伝子解析研究	妊娠出産時に同意のもとご提供いただき保存した資料を用い、化学物質の量や、健康、成長に関する情報などとゲノム・遺伝子情報との関連を検討する	

※このほか、各ユニットセンター独自の「追加調査」が行われる場合がある。

(3) 調査のスケジュール



エコチル基本計画、研究計画書等をもとに福島ユニットセンターで作成

(4) 福島ユニットセンターにおける調査概要

ア 調査対象地域

県内全域を対象とする。全国のユニットセンターで県内全域は本県のみ。

●リクルート（参加登録）対象地域の推移

時期	対象地域
平成23年1月開始時	福島市、南相馬市、双葉郡（広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村） 計 10 市町村
平成23年6月以降	伊達市、桑折町、国見町、川俣町の4市町を追加 計 14 市町村
平成24年10月以降	県内全 59 市町村に拡大 計 59 市町村

※登録期間：平成23年11月～平成26年3月

イ 参加登録者数

全国の15ユニットセンターの登録者総数は約10万名おり、うち本県のリクルート時の登録者（妊婦）はのべ約13,000名で令和7年3月31日現在約11,824名の子どもが調査に参加しており、全国で最も多い参加者数（10%を超える割合）となっています。

●リクルート時の登録者数



妊娠した女性登録のカバー率※は**48.5%**でした。

※カバー率とは、対象地域で登録期間に出生したお子さんの人数に対する登録した妊娠した女性人数の占める割合です。

登録期間中に県内の妊婦さんのうちおよそ「2人に1人」が調査に参加してくれたんだね

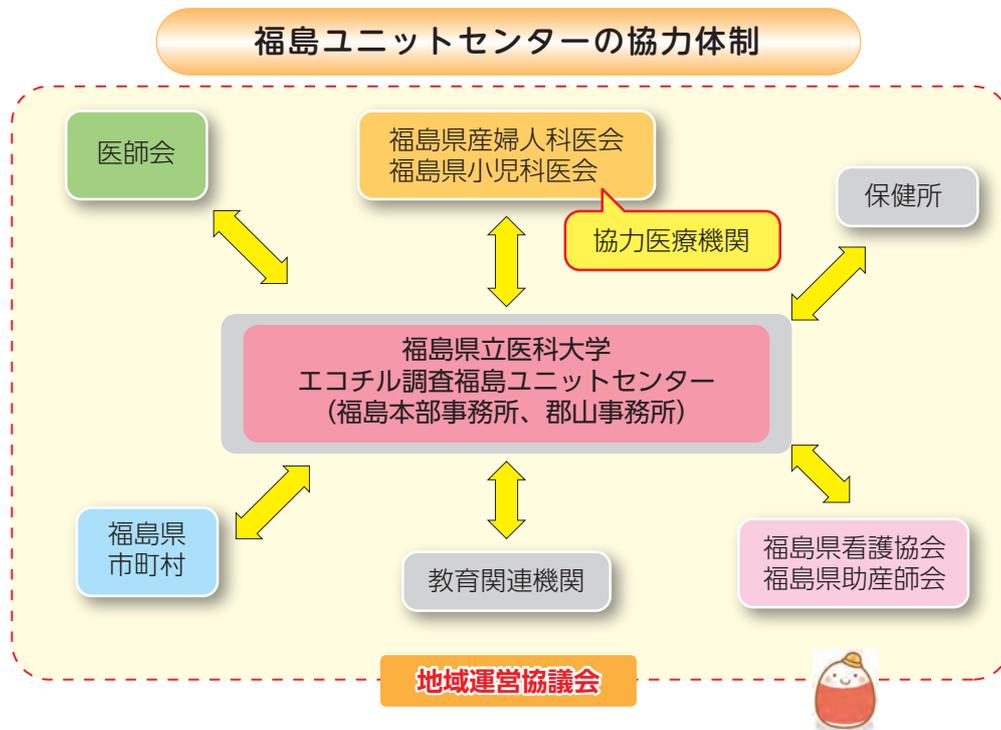


●年齢別エコチルキッズ数（令和7年3月31日現在の登録者数）

平成23年度生まれ（13歳）	平成24年度生まれ（12歳）	平成25年度生まれ（11歳）	平成26年度生まれ（10歳）	計
911名	1,957名	5,927名	3,029名	11,824名

ウ 福島ユニットセンターの協力体制

エコチル調査の実施にあたっては、参加するお子さまとその家族はもとより、関係機関・団体の協力が不可欠です。そのため、地域運営協議会を設置して効果的な連携を促進することによりエコチル調査の円滑な遂行を図っています。



(5) 13歳以降の調査継続

ア 環境省「健康と環境に関する疫学調査検討会」報告書

エコチル調査基本計画（2010）では、お子さまが13歳に達するまで調査を行う計画であったが、思春期以降に発症する疾病等（不妊症、精神神経疾患、生活習慣病等）や参加者の子どもの次の世代の子どもへの健康影響等を確認するためには、13歳以降も調査を展開することが必要とし、エコチル調査を40歳程度まで継続するという方針が打ち出された（令和4年3月29日）。

イ エコチル調査基本計画の改定

環境省では、基本計画を改訂（令和5年3月30日）し、13歳以降の調査継続が決定した。研究計画書は当面18歳までの調査を組入れた計画に改訂された。

ウ 13歳以降調査継続に関する代諾同意手続

令和5年度より小学6年生参加児の代諾者（保護者）を対象に、エコチル調査参加者ポータルサイトから電磁的方法によりお子さまが18歳に達するまでの調査継続について協力意思の確認を開始した。

エ 13歳以降の調査

ウの項で13歳以降の調査への協力を同意した参加児および代諾者を対象に、令和6年4月よりWeb 質問票を開始した。

2 調査の実績

(1) 全体調査の実施

ア 質問票調査

年2回、質問票を参加者宅へ発送し、回答いただいている。参加者が小学校入学後は、誕生月の年齢質問票と学校生活での状況を把握するための学年質問票を発送している。10歳から12歳の年齢質問票では、子ども自身が回答する「子どもアンケート」を配布している。

現在、質問票はユニットセンターで封入・発送作業を行い、参加者がユニットセンターに返送後、入力及びデータクリーニング作業を行っている。

質問票回答により得られた結果は、できる限り参加者に返却を行っている。令和6年度は12歳質問票回答より「子どもの食事・栄養の特徴」の結果を郵送にて返却した。

(ア) 質問票発送件数

令和6年度は、10歳から12歳までの年齢質問票と小学4年生から6年生までの学年質問票の計6種類、総計21,636部の質問票を発送した。(表1)

表1 令和6年度 質問票調査発送数 (令和7年3月末時点)

管轄	10歳	11歳	12歳	小学4年	小学5年	小学6年	計
本部事務所	799	1,881	1,540	922	1,436	1,497	8,075
郡山事務所	1,822	4,060	648	2,098	4,477	456	13,561
計	2,621	5,941	2,188	3,020	5,913	1,953	21,636

(イ) 質問票回収状況

ユニットセンターでは、全質問票の平均回収率80%の維持を目標としている。令和7年3月22日現在の発送後6か月後の全質問票(24種類)回収率は、78.2%であった。回収率は、年齢が上がるにつれ徐々に低下傾向にある。(図1)

回収率維持を目指し、12歳年齢質問票はカスタマイズボールペン(5色用)キャンペーンとし、質問票を返送した場合に参加者が希望する5色ボールペンをカスタマイズできる特典とした。また学年質問票の返送依頼は、時期を早め年度末に再送やSNSを追加した。

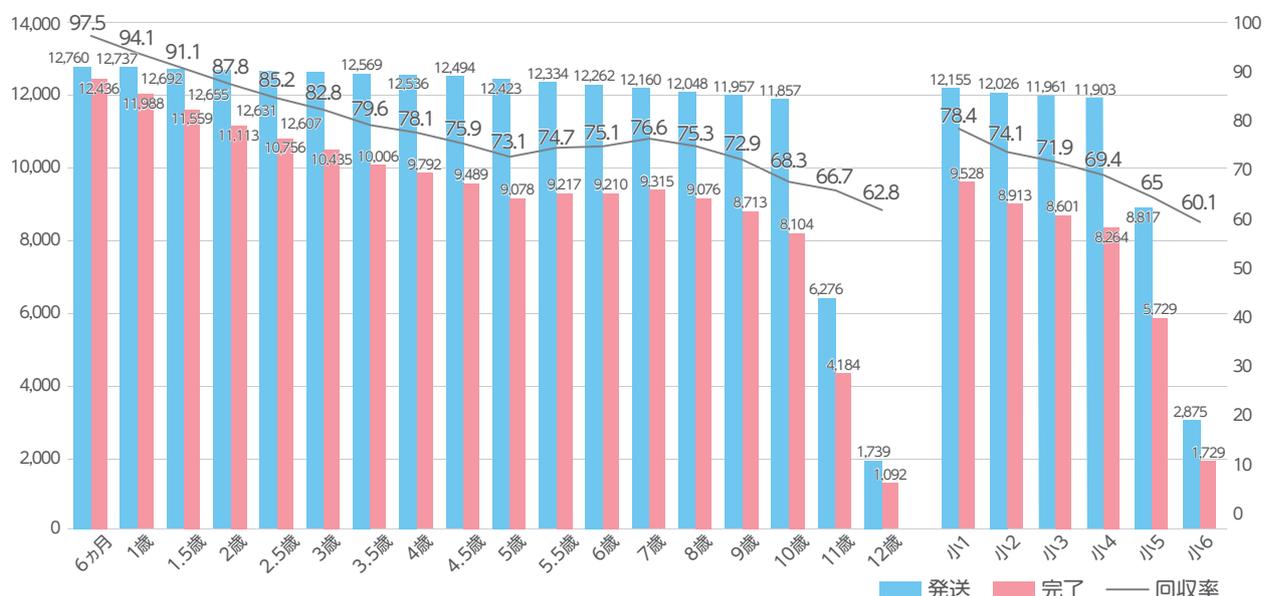


図1 質問票回収状況 発送後6か月後 (令和7年3月22日時点：実務担当者Web会議資料より)

(ウ) フォローアップ状況について

エコチル調査終了時のフォローアップ率は80%以上を維持することを目標にしている。令和6年度末では92.6%であった(表2)。参加者のエコチル調査に対する思いを大切に、調査期間中継続して「エコチル調査に参加してよかった」、「エコチル調査を続けたい」といったモチベーションを維持していただけるよう、発達段階に応じたイベント開催やニュースレターの発行、質問票返戻者へのプレゼントキャンペーンなどを実施している。

調査参加者が、福島県外へ転居する場合、対象地域となっているユニットセンターへの管轄変更又は質問票の返送先を福島ユニットセンターとして継続参加いただいている。調査参加者が住所不明となり、電話連絡が取れない場合は、参加時の同意内容に基づき住民票照会を実施し、状況を把握しながら連絡を試みている。

令和6年度の子どもの調査協力取りやめ件数は43件(代諾者消失41件、住所不明2件)で代諾者消失の理由は、質問の回答が負担、健康状態の悪化、家庭環境の変化(仕事と家事の両立困難・離婚・死別等)であった。

表2 現行調査参加者ステータス(令和5年3月末時点、令和6年3月末時点、令和7年3月末時点)

	転出	転入	本人死亡	代諾者消失	住所不明	その他	現参加者	現参加率 (転出入調整)
令和5年3月末時点	221	143	24	756	65	13	11,930	93.3%
令和6年3月末時点	238	145	25	801	66	13	11,868	92.9%
令和7年3月末時点	245	151	25	842	68	13	11,824	92.6%

イ 学童期検査

(ア) 概要

これまでにご提供いただいた試料・データに、検査で測定した結果を加え、環境中の化学物質が子どもの成長や健康に与える影響について、より詳しく分析する調査を行っている。参加児に直接会って、調査で定められた機器・方法により検査を行う。令和4年度までは小学2年生のお子さまを対象に検査を4年間実施し、令和5年度からは小学6年生を対象に令和8年度まで4年間実施予定である。

年度別 学童期検査(小学6年生)対象者数(令和7年2月1日時点)

管轄	令和5年度 (平成23年度生)	令和6年度 (平成24年度生)	令和7年度 (平成25年度生)	令和8年度 (平成26年度生)
福島本部事務所	874	1,502	1,794	852
郡山事務所	41	457	3,742	1,985
年度計	915	1,959	5,536	2,837

a 検査方式

ユニットセンターでは予め検査日を設定し、参加者が予約登録して実施する集団健診方式で行った。実施される検査項目は、小学2年生時に行われた(a)身体測定:身長・体重・体組成(体脂肪率・筋肉量)(b)精神神経発達検査(CAT検査)の2項目に、(c)尿検査(d)問診(e)皮膚観察(f)血液検査の4項目が加わり、(f)血液検査については、全対象者の中でも希望者のみに対して実施した。

検査は(a)身体測定(b)精神神経発達検査を行う日程と(c)尿検査(d)問診(e)皮膚観察(f)血液検査を行う日程を作成し、2回に分けて参加者を募集した(別日検査)。2日(別日検査)に参加するのが難しい参加者に対して、(a)~(f)が同時に行える枠を設定し施行した(同日検査)。

また、地域医療機関に検査協力を依頼し、(c)~(f)の検査について協力を得た。集団健診方式で日

程の合わなかった参加者に対しては、直接日程を調整し実施する個別方式も取り入れ、(a) (b) の検査をユニットセンターで実施した。

(イ) 令和6年度実績

- a 協力医療機関 今年度の調査開始時には、昨年度より協力が得られた40医療機関を訪問し、昨年度の概要を報告して再度調査協力と継続を依頼した。検査初回はユニットセンター職員が訪問して検査支援を実施した。
- b 参加者への案内発送 令和6年5月14日 対象者全員に対して一斉発送
- c 予約受付期間 令和6年5月14日～令和6年12月20日
- d 予約方法 Web・封書・電話申込の3種類を併用
- e 検査期間 令和6年6月1日～令和7年2月7日(9ヶ月)
夏・冬季休暇は平日・土日も含めて、学校期間中は土日祝日に期間を設定した。

f 実施体制

集団健診方式での検査は検査業務を委託して実施し、ユニットセンター職員3～4名が会場責任者・受付業務、委託職員3～7名が受付・検査業務を担当し実施した。

協力医療機関での検査は、初回実施時にユニットセンター職員が訪問して検査支援を行い、2回目以降は医療機関のみで実施している。事前に必要物品、書類一式を発送した。

g 実施会場

別日検査 (a) (b)

内訳) 自治体関係施設 (保健センターなど)	9 箇所	
民間施設	5 箇所	
福島本部事務所・郡山事務所	2 箇所	計 16 箇所

別日検査 (c)～(f)

内訳) 福島県立医科大学	1 箇所	
協力医療機関		
県北地区	9 箇所	
県中地区	12 箇所	
会津地区	6 箇所	
県南地区	5 箇所	
いわき地区	2 箇所	
相双地区	4 箇所	計 41 箇所

同日検査 (a)～(f)

福島県立医科大学	1 箇所
----------	------

h 実施日数

令和6年6月1日～令和7年2月7日までの間、のべ232日間実施した。集団健診方式では1時間あたり5～6名、14～35人の予約枠とした(1名ずつ10～15分間隔で受付を実施)。

協力医療機関での検査は各医療機関の意向を伺い、医療機関の希望に沿う形で日程・実施人数を調整した。

内訳)

別日検査 (a) (b) 身体測定・精神神経発達検査

管轄	集団健診方式	個別方式	合計(日数)
福島本部事務所	27	7	34
郡山事務所	16	9	25
合計	43	16	59

集団健診方式内訳 学期中 35 日 夏季休暇中 8 日

個別方式内訳 学期中 10 日 冬季休暇中 6 日

別日検査 (c)～(f) 血液検査

管轄	ユニットセンター (集団健診方式)	医療機関 (のべ日数)	合計 (日数)
福島本部事務所	2	96	98
郡山事務所	3	60	63
合計	5	156	161

ユニットセンター内訳 学期中 5 日

医療機関内訳 学期中 131 日 夏季休暇中 23 日 冬季休暇中 2 日

同日検査 (a)～(f)

管轄	ユニットセンター (集団健診方式)
福島本部事務所	12

ユニットセンター内訳 学期中 8 日 夏季休暇中 4 日

i 実施件数

身体測定・精神神経発達検査 748 件

血液検査 650 件

内訳

身体測定・精神神経発達検査

管轄	集団健診方式	個別方式	合計 (件)
福島本部事務所	551	18	569
郡山事務所	161	18	179
合計	712	36	748

血液検査

管轄	ユニットセンター (集団健診方式)	医療機関	合計 (件)
福島本部事務所	286	226	512
郡山事務所	—	138	138
合計	286	364	650

令和 6 年度の検査実施率は 38.2%、血液検査実施率は 33.2%であった。

j 結果返却

(a) 身体測定 身長・体重・体組成 (体脂肪率・筋肉量) を会場で直接返却した。

(f) 血液検査 コアセンターが作成した結果報告書に説明用紙を添付し、検査実施後約 2 ヶ月を目安に郵送で返却した。

k ボランティア活動証明書の発行

参加者に対して、コアセンターが発行したボランティア活動証明書を (a) (b) の検査実施時、または (f) の結果返却にあわせて発送した。

(ウ) 令和元年～令和4年度実績

	対象者	実施件数	実施率
令和元年度	小学2年生	531	57.1%
令和2年度	小学2年生	758	37.7%
令和3年度	小学2年生	2,290	40.4%
令和4年度	小学2年生	1,289	45.2%

(エ) 令和5年度実績

	対象者	実施件数	実施率
令和5年度	小学6年生	393	42.9%

(a) (b) または (f) のいずれかに協力した場合を実施件数としている。

ウ 乳歯調査

参加児の脱落乳歯（犬歯）を分析することで、胎児期から乳幼児期それぞれに取り込んだ化学物質の情報を調べ、長期的な化学物質と子どもたちの成長や発達との関連を調査する。

(ア) 概要

【対象者】 エコチル調査全参加児の内、乳歯調査協力確認ハガキによる協力意思表示者

【調査内容】 参加児が10歳（小学4年生）の時に乳犬歯2本及び調査票を提出いただく

【調査スケジュール】

平成31年3月～	乳歯調査協力確認ハガキにより、協力意思確認を開始
令和元年12月～	協力意思表示者に乳歯保管ケース・乳歯調査ブックの送付開始
令和3年5月 - 令和4年9月	平成23年度生まれの協力意思表示者に乳歯回収キットの送付
令和4年5月 - 令和5年9月	平成24年度生まれの協力意思表示者に乳歯回収キットの送付
令和5年5月 - 令和6年9月	平成25年度生まれの協力意思表示者に乳歯回収キットの送付
令和6年5月 - 令和7年9月	平成26年度生まれの協力意思表示者に乳歯回収キットの送付

(イ) 令和6年度の福島ユニットセンターでの取組

①乳歯回収キット発送及び回収率向上の取組

- 平成25年度及び平成26年度生まれ対象者へ乳歯回収キットリマインドハガキの送付
- ホームページでの資料掲載

②乳歯調査協力確認ハガキ回収率向上の取組

- 対面調査時の協力確認
- 電話連絡時（住所変更確認作業時等）の協力確認



乳歯回収キットリマインドハガキ

乳歯回収キット回収状況（令和7年3月末時点）

対象者	発送数	回収数（協力率）
平成23年度生まれ	377	279 (74.0%)
平成24年度生まれ	752	531 (70.6%)
平成25年度生まれ	2,544	1,767 (69.5%)
平成26年度生まれ※	1,407	829 (58.9%)

※回収期限は令和7年9月末まで

工 疾患情報登録調査

疾患情報登録調査は、エコチル調査で対象としている疾患（川崎病、染色体異常及び心疾患以外の先天性奇形、先天性心疾患、内分泌・代謝異常、てんかん・けいれん、小児がん、精神神経発達など）について、お子さんの受けた診断、治療の内容、病状の経過など質問票では把握できない医学的な情報、かかりつけの医療機関から調査票を用いて提供していただく調査である。

返送いただいた質問票のご記入内容をもとに、ユニットセンターから、県内、県外のかかりつけの医療機関に二次調査へのご協力をいただいている。

令和6年度は、4件の調査を実施した。

※協力医療機関については39ページに記載

オ 13歳以降調査

令和5年3月に13歳以降も40歳までエコチル調査を継続することが決定した。まずは、18歳までの協力意向を確認するため、令和5年6月より調査継続参加に伴う案内を郵送した（図1）。13歳以降調査はWeb質問票による回答となるため、専用システム「参加者ポータルサイト」へログインし、保護者及び子どもそれぞれのアカウントより、年5回Web質問票への回答を依頼した。

13歳以降調査について継続的に参加・協力（表1）いただけるよう、案内ハガキの発送（図2）やプレゼントキャンペーンの実施、対面調査時の勧奨を行っている。

表1 13歳以降調査ステータス（令和7年3月末時点）

対象者	総数	親権者・積極的意思表示	親権者・継続者総数
平成23年度生まれ	904	387	783
平成24年度生まれ	1933	869	1930



図1 13歳以降調査説明書（子ども用）



図2 13歳以降調査案内ハガキ

(2) 詳細調査の実施

ア 詳細調査の概要

詳細調査では質問票だけでは得られない専門的な知見を得るため、また、客観的な評価指標により、エコチル調査全体の信頼性を高めるため、全体の5%の参加者を対象に1) 訪問調査(環境測定)、2) 精神神経発達検査、3) 医学的検査を行っている。

全国5,000名の内、福島ユニットセンターでは637名に同意をいただき詳細調査を開始した。1歳6か月・3歳訪問調査(環境測定)、2歳・4歳精神神経発達検査・医学的検査、6歳医学的検査、8歳精神神経発達検査・医学的検査が終了し10歳詳細調査の開始時点(令和5年4月)の参加者は596名だった。

イ 令和6年度の実績

令和6年度は10歳児を対象とした精神神経発達検査および医学的検査を実施した。10歳詳細調査は、令和5年4月から令和7年2月まで約2年かけて実施した。

(ア) 10歳詳細調査 実施件数(令和7年2月末時点)

精神神経発達検査 438件、医学的検査 421件

欠測数 185件(表1参照)

表1 10歳詳細調査が欠測となった理由

理由	人数	理由	人数
連絡がつかない	67	仕事の都合	12
余裕がない(親)	26	余裕がない(子)	10
子どもが拒否(採血拒否)	25	子どもの負担になる	7
検査曜日・時間帯が合わない	12	県外	1
発達検査を受けたことがある・受ける予定がある	12	その他	13

(イ) 精神神経発達検査

<検査項目>

- ・WISC-IV知能検査
- ・子どもの不安尺度(SCAS)
- ・母親を対象とした推理力に関する自記式検査(Raven's SPM)

<実施会場>

10歳の精神神経発達検査では公共施設等を利用し、1日に4~6名の参加者に来場いただき実施した。

自治体関係施設 11か所(伊達福祉センター・かしま交流センター・飯舘村交流センターふれ愛館・郡山市労働福祉会館・三春交流館まほら・小野町多目的研修集会施設・福島空港ビル・白河市人材育成センター・いわき産業創造館・いわき市労働福祉会館・植田公民館)

民間施設 1か所(アピオスペース)

大学 1か所(福島県立医科大学)

(ウ) 医学的検査

<検査項目>

小児科医診察(皮膚の観察)、身体測定(身長、体重・体組成、頭囲、腹囲)、血圧測定、血液検査、尿検査

10歳の子どもの成長に合わせ、インフォームド・アセント※1に基づき検査を実施し、採血を含む検査に対する子どもの意思を尊重した。そのため、より丁寧なプレパレーション※2を心がけた。また、治療の必要がない子どもに対して採血を行うにあたり、子どもの負担や痛みを軽減する方法の1つとして、参加児や保護者の希望および医師の判断に基づき局所麻酔剤を使用することもできた。それらの関わりの下、子どもが検査や採血に対して拒否の意向を表明した場合には、その意思を尊重し、原則としてその検査項目は実施しない方針で行った。

※1 インフォームド・アセント…小児の治療や検査などに対して、当事者の子どもに対してわかりやすく説明し、同意を得ること。

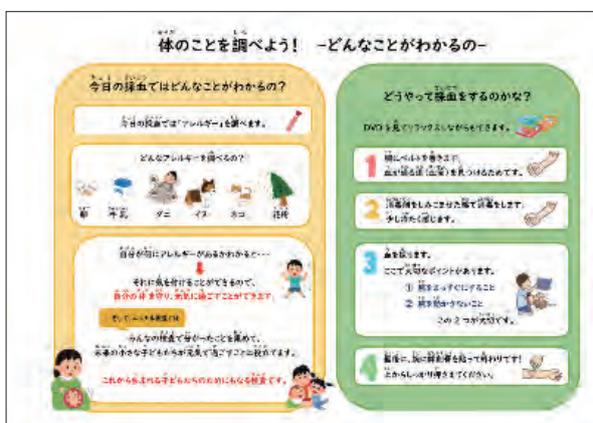
※2 プレパレーション…治療や検査、手術などの処置に関する内容や目的などを、医療行為を受ける子どもに説明すること。



スタンプラリーを取り入れ、楽しみながら検査を実施できるようにした



<検査後のプレゼント>
発達検査：ペンケースと鉛筆
医学的検査：水耕栽培キット（ミニトマト）



<プレパレーション資料>
参加児に B4 サイズの資料で採血の目的と流れを説明した

(エ) 協力医療機関

医学的検査では参加者の意向（検査時間や曜日の拡大）を踏まえ、基幹病院に加え、地域の個人医院（23 医療機関）を含む、県内全域の 36 医療機関に協力を得ている。

（協力医療機関一覧は「5 資料」の協力医療機関一覧 P.38 を参照のこと）

また、令和 5 年度より集団健診方式での医学的検査を本格的に開始した。実施に向けて、基幹病院との調整を行った。

<集団健診方式医学的検査 実施医療機関>

福島県立医科大学、星総合病院、いわき市医療センター

(オ) 会議等の開催

① 精神神経発達検査定例会

令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月 計 11 回

出席者：医学的相談責任者、発達検査リーダー、福島県立医科大学公認心理師、
福島県立医科大学小児精神科医

② 詳細調査担当情報交換会

令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月 計 11 回

出席者：大学助手、リサーチコーディネーター

(カ) 協力医療機関・WISC 検査者との情報共有

① 「エコチル☆詳細調査☆だより」の発行

「エコチル☆詳細調査☆だより」を発行し詳細調査の進捗状況等を協力施設・WISC 検査者にお知らせした。（第 100～105 号発行）

② WISC 検査者情報交換会

第 1 回 令和 6 年 8 月 24 日、9 月 1 日

第 2 回 令和 7 年 3 月 1 日、3 月 9 日

出席者：WISC 検査者、センター長、大学助手、リサーチコーディネーター

③ 医療機関訪問

（医療機関訪問は「3」（3）関係機関訪問 P.28 を参照のこと）

ウ 過去の実績

(ア) これまで実施した検査項目

項目 \ 対象年齢	1 歳 6 か月	2 歳	3 歳	4 歳	6 歳	8 歳
訪問調査（環境測定）	○		○			
精神神経発達検査		○		○		○
医学的検査		○		○	○	○

(イ) 訪問調査（環境測定）

1 歳 6 か月、3 歳に実施した。ユニットセンタースタッフ（2 名程度）が 1 週間の間隔をおいて 2 回参加者の自宅を訪問し、以下の居住・生活環境について調べた。

- ・子どもの布団から採取したハウスダスト中のアレルギー物質
- ・掃除機から採取したダスト中の化学物質
- ・屋内と屋外で採取した空気中の粒子状物質や化学物質
- ・住宅環境や化学物質の使用状況

(ウ) 精神神経発達検査

2歳、4歳に、訓練を受けた検査者の面談により精神神経発達検査（新版K式発達検査2001）を実施した。8歳ではパソコン、タブレットを使用したCAT検査（認知機能評価）を実施した。

(エ) 医学的検査

2歳、4歳、6歳、8歳に実施した。協力医療機関まで参加者にお越しいただき、参加児の健康状態や成長発達について検査をした。医師による診察や血液検査も行った。

(オ) 実施件数(人数)

対象年齢 項目	1歳 6か月	2歳	3歳	4歳	6歳	8歳
実施期間	平成 26.11 ~28.8	平成 27.4 ~29.1	平成 28.5 ~29.12	平成 29.4 ~31.1	令和元 .5 ~3.2	令和 3.4 ~5.1
訪問調査（環境測定）	637	—	576	—	—	—
精神神経発達検査	—	617	—	558	—	455
医学的検査	—	614	—	538	403	427*

※発達検査会場で身体計測のみ実施した参加者は除いた人数

(3) ゲノム・遺伝子解析研究

エコチル調査ゲノム・遺伝子解析研究では、妊娠出産時に同意のもと、お子さま、お母さま、お父さまから提供いただき保管した試料を解析し、健康や成長、生体試料中の化学物質の量に関する情報などと、ゲノム・遺伝子情報などとの関連を検討する。令和4年2月下旬に参加者へ研究説明書を送付しました。解析開始前に、オプトアウト方式で協力意思を確認し、令和4年9月より国立環境研究所で解析が開始された。

(4) 感染症対策

エコチル調査における感染防止対策を以下の通り実施した。

ア 「感染症対策マニュアル」の整備

令和2年7月にエコチル調査福島ユニットセンターとしての「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」の第一版を作成した。

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症は感染症法上、新型インフルエンザ等感染症から5類感染症に分類が変更されることとなり、感染状況の動向に合わせ随時改定を行った。

- (改定) 第1版 令和2年7月31日 第1版を定例会で決定。
第2版 令和2年8月24日 感染拡大時の対応を追記。
第3版 令和2年9月28日 対面調査の中止後、再開時の報告部署を追記。
第4版 令和3年2月2日 学童期検査の1時間の実施人数の変更、精神神経発達検査の実施場所を追記。

- 第5版 令和4年2月14日 行動観察・健康観察期間の変更。学童期の同伴児枠、及び詳細調査のボランティア児研修説明を追記。
- 第6版 令和4年7月20日 マニュアル全体の見直し、修正。対応フロー図の修正。
- 対応表 令和5年6月1日 新型コロナウイルス感染症の5類変更に伴うエコチル調査福島ユニットセンターの体制、対応。
- 第7版 令和7年2月10日 「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」から「感染対策マニュアル（主にCOVID-19・インフルエンザ）」とした。「学校感染症の種類と出席停止期間の基準について」の資料を加えた。

イ 検査時の感染防止対策

対面調査では、エコチル調査福島ユニットセンターの「感染症対策マニュアル」に準じて検査を実施した。医療機関を会場とした詳細調査医学的検査では、各医療機関に感染対策や参加者の参加条件を事前に確認し、それに準じて検査を実施した。

(5) 参加者への謝礼のお支払い

調査参加者への謝礼として当初は金券を送付していたが、平成26年3月から母親への謝礼を電子マネーによる支払いに切り替えた。

質問票調査では、13歳以降、紙質問票からWeb質問票に変更され、謝礼の支払い方法がnanacoポイントから「選べるe-ギフト」に変更となった。

ア 目的

母親参加者約13,000人に13年間にわたって年2回、質問票への謝礼として金券での謝礼支払いを行うことは、人的・時間的な労力を要し、また、簡易書留の郵送費を伴うこととなる。これら膨大な労力と経費を削減するとともに、金券の紛失等の人的ミスを解消するため、謝礼の支払いを電子マネーに切り替えることとした。

平成26年11月から、参加者の5%にあたる637人の方を対象とする詳細調査が開始され、その謝礼においても電子マネーによる支払いとした。また、令和元年7月より、小学2年生を対象とする学童期検査が開始され、その謝礼においても電子マネーによる支払いとした。

なお、nanacoポイント付与終了に伴い、10歳時の詳細調査では、令和5年4月から金券による謝礼の支払いを行なった。小学6年生を対象とする学童期検査では、令和5年7月より金券による謝礼の支払い（医療機関での実施を除く）を行なった。

イ 対象者

同意書や質問票を回収した母親または父親について、12,235名（令和7年3月末現在）に電子マネーカードを送付し、謝礼をポイントとして付与した。

ウ その他

これまでnanacoカードの利用方法やポイントの有効期限について、発行時における取扱説明書の配付、ニューズレターでの定期的なお知らせ、カレンダーでの案内等により参加者全員に対し周知を図ってきた。

令和6年度は、令和5年度より引き続きnanacoカードの利用方法やポイントの有効期限について周

知徹底を図るため、次の方法により注意喚起を行った。また、13歳以降の謝礼の支払い方法の変更に伴い、参加者へ随時、nanacoカードのサポート終了に関する周知を行なった。

- ① 令和7年3月末までに nanaco ポイントが失効する可能性のある参加者へ案内はがきを送付【図1】
- ② ホームページに「nanaco ポイント付与とサポート業務の終了について」のQ&Aを掲載
- ③ ニュースレター夏号に nanaco ポイントの有効期限、サポート終了のお知らせを掲載【図2】
- ④ 令和6年7月、nanaco ポイントの有効期限とサポート終了の案内チラシを小学6年生質問票に同封【図3】

【図1】

【図2】

【図3】

3 調査推進のための各種活動

(1) 広報・イベント活動

ア ニュースレターの発行

2024年夏号(令和6年6月)・2024年秋・冬号(令和6年11月)、2025年春号(令和7年3月)の計3回発行した。また参加者よりご応募いただいた、お子さまの「〇〇に夢中!! フォト」を表紙に掲載した。さらに昨年に引き続き、「遊んで! 学んで! エコチルキッズ」と題した子ども向け記事においては、各号テーマを変えて掲載し、また「おしえて先生」など親子で楽しめる内容も提供した。各号(参加者あて約11,150部、市町村等関係機関あて約1,500部、計12,650部)



2024年夏号(令和6年6月発行)
2024年秋・冬号から2025年春号は、資料編を参照

イ 活動報告書の作成

エコチル調査の毎年の活動状況を記録するとともに、調査にご協力いただいている行政機関、医療機関、教育関係機関など各分野の関係者への配布を通じ、調査への一層の理解促進と円滑な事業推進を図ることを目的とする。

(ア) 今年度の実績

令和5年度活動報告書を500部作成し、7月に地域運営協議会委員を含む関係機関・団体等に配布した。

(イ) これまでの実績

平成22、23、24年度版活動報告書として平成25年度に発行して以降、平成25年度版以降は、各年度の翌年度に発行している。

なお、令和2年度版からは分かりやすい内容・構成に見直すとともに、従来のモノクロからフルカラーとするなど、全面的な見直しを行った。

ウ メールマガジンの配信

学内の教職員及び学生向けに、エコチル調査のデータ集計結果や論文などを紹介する「情報発信：エコチル調査」を計11回配信

発行	配信日	トピック	論文紹介（筆頭著者所属名）
第79号	令和6年4月25日	郡山市「子どもまつり」でブース出展します	分娩時の胎児機能不全と生まれた子どもの神経発達との関連（福島県立医科大学 産婦人科学講座 村田強志先生）
第80号	令和6年5月30日	外部評価にて「A」をいただきました	乳児期のピーナッツ摂取とピーナッツアレルギー（甲信ユニットセンター（山梨））
第81号	令和6年6月27日	発行：ニュースレター 2024年夏号（通算40号）	妊娠前からの母親の食事の質と子どものぜん息症状のパターンとの関連（コアセンター）
第82号	令和6年7月31日	「おやこでダンス教室」参加者募集	妊婦の朝食摂取と3歳時の精神神経発達（福島県立医科大学 産科婦人科学講座 今泉花梨先生）
第83号	令和6年8月29日	緊急連絡網を再確認してはいかがでしょう	生後6か月と12か月における正期産児の在胎週数と神経発達遅滞の関連（福島県立医科大学 小児科学講座 羽田謙太郎先生）
第84号	令和6年9月26日	秋晴れを楽しみましょう	多嚢胞性卵巣症候群を有する女性の体格指数に基づく妊娠糖尿病リスク（福島県立医科大学 産科婦人科学講座 大越千弘先生）
第85号	令和6年10月31日	「おやこでダンス教室」を開催しました	妊娠中母体血中重金属と微量元素と先天性四肢形態異常との関連（北海道ユニットセンター）
第86号	令和6年11月28日	西の山々も白くなってきました	妊娠前の食物繊維摂取量と妊娠高血圧症候群の関連：エコチル調査（福島県立医科大学 産科婦人科学講座 小元敬大先生）
第87号	令和7年1月16日	エコチル調査成果・進捗報告会を開催します	妊娠中のフェノールばく露と子どもの喘息発症（南九州・沖縄ユニットセンター）
第88号	令和7年2月27日	環境セミナーを開催しました	胎児期の水銀ばく露と子どもの精神神経発達およびけいれん発症の関連（南九州・沖縄ユニットセンター）
第89号	令和7年3月27日	花粉と黄砂のシーズンです	母親の仕事での有機溶剤使用と子どものウエスト症候群発症（兵庫ユニットセンター）

エ イベント等の開催

(ア)環境セミナーの開催

第7回エコチル★ふくしま環境セミナーの実施

【目的】①エコチル調査参加者の参加意欲の維持・向上を図る。

②地球温暖化や5Rについて学習し、身近な環境問題についての関心を高める。

【開催日時】令和7年2月15日（土）午前10：00～午前11：20

【会場】郡山市富久山クリーンセンター

【対象者】エコチル調査参加者

【参加者数】7組 21名

【講師】郡山市資源循環課 課長補佐 菊池 弘明さん

エコチル調査福島ユニットセンター センター長 橋本 浩一先生

【内容】1. エコチル調査でわかってきたこと

エコチル調査の概要及びエコチル調査でわかってきたことを説明するとともに、エコチル調査が13歳以降も継続となることをご理解いただいた。

2. 5Rを知ろう！

「ごみ減量」や「気候変動対策」について講話をいただき、「みんなで、むりせず・たのしく・できることから」を基本にした5Rへの取組みについて理解することができた。

3. 郡山市富久山クリーンセンター「体感型学習施設」見学

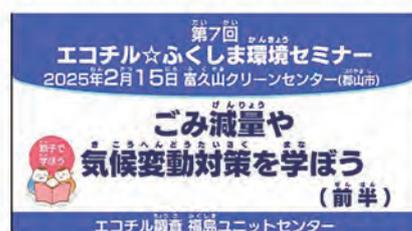
施設で受け入れる一日の一人当たりのごみの量を体感することや、パネルや動画の視聴、タッチパネルを使ったゲームで遊びながらゴミ問題について学び、理解を深めることができた。



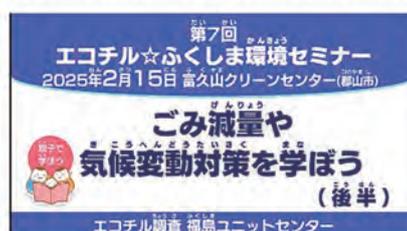
4. エコチル★ふくしま HP へ環境セミナー動画掲載

環境セミナー当日の様子をエコチル★ふくしま HP へ動画を公開し、当日参加した親子だけでなくエコチル調査参加者同士においても共通の話題となるよう、コミュニケーション活動の場として活用した。

環境セミナーの動画



第7回エコチル★ふくしま 環境セミナー 前半



第7回エコチル★ふくしま 環境セミナー 後半

(イ)親子ふれあい会の開催

エコチル★ふくしま親子ふれあい会の開催

【目 的】①エコチル調査参加者親子・参加者同士そして参加者と福島ユニットセンターとのコミュニケーションを深める。

②参加者が、エコチル調査を長期間にわたり協力していただくためのモチベーションを高める。

【開催日時】令和6年7月7日（日）午前10：20～午後2：20

【会 場】独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立磐梯青少年交流の家（猪苗代町）

【参加者数】27組 94名

【内 容】「エコチル調査でわかったこと」や「13歳以降のエコチル調査について」などの講話により、エコチル調査への理解を深める研修の場を提供した。

あわせて郷土（福島県）の産業について、理解を深める場として、施設で実施している「会津漆蒔絵体験」を家族で楽しみながら体験する機会を提供した。

体験で制作した作品は、完成後紹介していただくなど、調査参加者相互のふれあいの場にもなり、参加者アンケートでは高い満足度を得られたイベントとの評価を得ることができた。



会津漆蒔絵体験フォト（順不同）



(ウ) 全県イベント

「エコチル★ふくしま おやこでダンス教室」の実施

- 【目的】 ①調査参加者のモチベーションの維持・向上を図る。
②県民に対しては調査の知名度向上を目指し、エコチル調査の成果を親しみやすく紹介し、社会貢献性の高い調査であることを周知する。
③健康への関心につながることを目的として、ダンス教室を行う。

【開催日時】 令和6年10月20日（日）午前10：30～午後12：40

【開催場所】 AGCエレクトロニクス郡山カルチャーパーク / 福島県郡山市

【参加者数】 小学生親子 35組 97名

【令和6年度実績】 福島ユニットセンター長から「エコチル調査でわかってきたこと」と題して福島県の最新の調査データや調査が13歳以降も継続されること等について説明し、県民への周知および参加者のモチベーションの維持を図ることができた。

また、ダンススクール講師による「おやこでダンス教室」を実施し、親子のふれあいの時間と運動への関心を高める機会を提供することにより、参加者アンケートでは高い満足度を得られたイベントとの評価を得ることができた。

<イベントチラシ>

令和6年
10/20日
参加無料
&
ドリームランド
フリーパス
プレゼント!
午後からは
ドリームランドを
たっぷりENJOY!
初心者も
たのしめる
「エコチル調査でわかってきたこと」の紹介
おやこでダンス教室
初心者でも大丈夫!
基本の動きを身につけて、
流行りの曲で先生といっしょに
親子で楽しくダンスをおどろう!
当日使える
ドリームランドフリーパスを
全員にプレゼント
お申込みは
こちら
QRコード
福島県 エコチル★ふくしま
主催 公立大学法人福島県立医科大学 エコチル調査福島ユニットセンター 協力 一般社団法人福島スポーツアカデミー
お問い合わせ エコチル調査福島ユニットセンター(郡山事務所) TEL. 024-993-4750 (平日 9時~17時)

<成果発表の様子>



<ダンス教室の様子>



(イ) 令和6年度いきいき健康づくりフォーラムin会津若松

エコチル調査の周知及び調査に対する理解を促すことを目的として、令和6年度いきいき健康づくりフォーラム in 会津若松において、エコチル調査のPR活動としてブース出展を行った。

【開催日時】 令和6年11月10日（日）午前9：40 開場 コーナー運営午前9：40～午後3：00

【会場】 會津風雅堂／福島県会津若松市

【来場者数】 いきいき健康づくりフォーラム全体の来場者：約3,000人（主催者確認）
ブースでのエコチル調査に関する資料の配布数：244部（参加者：9組）

【活動内容】 エコチル調査に関する掲示・説明等の広報活動

1. エコチル調査に関する資料の配布
2. 活動内容のパネル展示
3. 握力測定の実施
4. アンケートの実施



カ その他の活動

(ア) グッズの配布

エコチル調査に継続参加していただくことを主たる目的として、全調査参加者にオリジナルカレンダーを贈呈した。また、エコチル調査の周知及び調査に対する理解を促すことを目的として、市町村等が主催するイベントや全県イベント等においてエコバッグやアルコール除菌ジェル、クリアファイル等を配布し広報に努めた。



(2) 地域運営協議会

ア 開催目的

エコチル調査の円滑な遂行を図るために、福島県地域運営協議会の他、県内地域ごとに4つの協議会（県北・相双、県中・県南、会津、いわき）を設置し、各地域の医療、保育・教育、行政（市町村）の約200名の方々に委員委嘱をしている。調査実績や今後の調査に関する情報発信、普及啓発を行うとともに、各方面の様々なご意見を伺うことを目的とし情報交流の推進を図る。

なお、令和6年度からは、最上級学年の参加者が中学校に入学したことから、福島県中学校長会の参画を得ている。

イ 開催状況

令和6年度は、県域と各地域の協議会をハイブリッド形式により、次のとおり実施した。

協議会名	開催日	場 所
福島県地域運営協議会	令和6年7月22日	杉妻会館（福島市）
県北・相双地域運営協議会	令和6年11月8日	杉妻会館（福島市）
県中・県南地域運営協議会	令和6年10月2日	郡山ビューホテル
会津地域運営協議会	令和6年11月13日	会津若松ワシントンホテル
いわき地域運営協議会	令和6年10月30日	いわきワシントンホテル

ウ 議事内容

- 全国のエコチル調査の現状について（コアセンター）
- 本県のエコチル調査の実施状況、参加者への調査結果の返却等、参加率維持のための取組、学術活動、令和5年度年次評価書について（福島ユニットセンター）

エ 意見聴取等

全般的には、概ね調査に対しての労い、調査の継続に期待する声が多かった。

調査結果・分析に対する期待、本調査の知名度アップのための広報活動の促進、年次評価の評価基準に関すること、今度の支援や協力体制について様々なご意見があった。

また、13歳以降調査継続協力者の維持について、ご助言をいただいた。

(3) 関係機関訪問

訪問を通じてエコチル調査への理解と協力を求めることを目的とする。

ア 市町村訪問

調査開始時には、県内全市町村を訪問し、調査に対する理解と協力を求めた。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故によりリクルートを中断した南相馬市及び双葉郡8町村に対しては、調査開始時に対象地域であったことから、毎年訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査推進等について支援を依頼してきた。

今年度は、地域運営協議会の開催（オンライン、ハイブリッド）を通じて、活動状況等をお知らせし、理解と協力を求めた。

イ 協力医療機関訪問

詳細調査では集団健診方式での医学的検査を開始するため、基幹病院4施設を訪問し説明、依頼、施設見学をした。また、令和7年2月より現在協力いただいている医療機関を訪問し、令和6年度の実施状況報告を行った。（令和7年4月にかけて31施設を訪問予定）

学童期検査では、令和5年度より協力をいただいている40医療機関に対し、令和7年1月から3月にかけて全医療機関を訪問し、令和6年度の実施状況報告を行った。

ウ 教育関連機関訪問

(ア) 今年度の実績

令和6年5月から令和6年8月にかけて県教育庁の各教育事務所と福島県小学校長会・中学校長会の関係者を訪問し、活動状況等をお知らせし、調査への理解と協力を求めた。

(イ) これまでの実績

平成23年度に出生した子どもたちが平成30年度から小学校入学を迎え、エコチル調査について説明し、調査への理解と協力を求めるため、平成28年度から教育事務所及び小学校長会、令和6年度からは中学校長会の関係者を訪問している。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和元、2年度は実施していない。

毎年、訪問時には、地域別に設置している福島県地域運営協議会委員就任について、各教育事務所長及び小学校長会・中学校長会役員の方々に依頼し、承諾をいただいている。

(4) 各種研修の実施

ア 代行研修

令和6年度は、ユニットセンター職員等24名に対し、センター長が講師として、「エコチル調査の概要、疫学研究の基本、環境、化学物質と健康」等の内容で入職時の研修を5回（令和6年5月24日、6月4日、8月5日、10月2日、令和7年2月5日）実施した。

これまでに実施した医療機関、市町村、ユニットセンター職員等に対する研修は、累計99回、受講者は累計819名となった。

イ 職員研修

ユニットセンター主催で全職員を対象に次の研修を実施した。

開催日	研修名	所管
令和6年5月8日 ～5月31日	AED研修 (Web)	福島ユニットセンター
令和6年5月15日	前期職員研修 ・ユニットセンター長講話 ・個人情報の取扱い・情報管理、リスク管理 ・「エコチル調査の学術成果と社会還元」 講師：副センター長（ふくしま子ども・女性医療支援センター教授） 西郡 秀和	福島ユニットセンター
令和6年12月18日	後期職員研修 ・ユニットセンター長講話 ・個人情報の取扱い・情報管理、リスク管理 ・教養講座 「アサーティブコミュニケーション研修」 講師：株式会社インソース 森 りか	福島ユニットセンター

ウ その他の研修

環境省、コアセンター、学内機関等主催の各種研修にも積極的に参加した。

<参加した主な研修>

開催日	研修名	所管
令和6年8月6日	ダイバーシティ推進員研修会	大学ダイバーシティ推進室
令和6年10月4日 ～12月25日	情報セキュリティ研修 (eラーニング)	大学術情報センター
令和6年10月25日	ダイバーシティ推進職場研修会	大学ダイバーシティ推進室
令和6年11月21日	内部統制研修会	大学事務局
令和7年1月20日	ハラスメント防止研修	大学事務局
令和7年1月22日 ～2月16日	コンプライアンス研修 (eラーニング)	大学コンプライアンス委員会
令和7年2月18日	リスクコミュニケーションに関する研修会	環境省

4 学術研究

調査から得られた成果の発信、社会への還元が取組が期待されている。そのため、福島ユニットセンターでも継続して積極的に取組んだ。

(1) 学術活動実施体制

大学一体となって学術情報発信を推進するため、平成 27 年 4 月 6 日に「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ（以下、学術 WG）」を設置し研究活動を進めている。

令和 7 年 3 月 31 日時点で、学術 WG 構成員は学内 18 講座・センター等に所属する 76 名であった。

(2) 学術 WG 活動について

ア 定例勉強会の開催

令和元年度より、毎月 1 回、執筆予定の全国データを用いた研究課題に関する勉強会を開始した。令和 6 年度は計 7 回開催し、研究課題について検討した。

イ 令和 6 年度成果発表状況

(ア) 原著論文

4 歳時までの固定データを利用して論文執筆を進めた。令和 6 年度において、福島ユニットセンター学術 WG 構成員が全国データを用いて執筆した査読付き原著論文の受理件数は 11 編（うち、中心仮説に関する課題 1 編）であった。

これまでに学術 WG 構成員が発表した査読付き原著論文の累計は 74 編となった。

(イ) その他

学会発表、講演等は 4 題行った。

(3) 成果発表の社会還元

ア エコチル調査からわかってきたこと エコチル★ふくしま版」第 4 号発行

エコチル調査データを用いて執筆された論文を紹介する「エコチル調査からわかってきたこと エコチル★ふくしま版」第 4 号（図 1）を発行し、参加者および調査関係者へ配付した。

イ 「エコチル調査からわかったプレコンセプションケア」講演

西郡秀和副センター長（産婦人科医）が県内外で一般・周産期医療関係者を対象とした調査で得られた知見の共有に取組んだ。

	対象者	日付	講演した集会	会場所在地
1	福島県助産師会関係者	令和6年6月1日	福島県助産師会研修会	二本松市
2	福島市保健業務関係者	令和6年9月26日	福島市保健業務研修会	福島市
3	母子保健関係者	令和6年10月12日	日本家族計画協会・日本DOHaD学会共催セミナー	札幌市
4	高校生	令和7年2月21日	福島県立川俣高等学校 保健体育授業 エコチル調査から分かった 生まれてくる子どものための 妊娠前から妊娠中の食生活の大切さ	川俣町

図1 エコチル調査でわかってきたこと エコチル★ふくしま版第4号



いつもエコチル調査へのご協力ありがとうございます。2024年末までに全国のデータを用いて発表された論文は497編となりました(国境省エコチル調査ホームページ発表発表一覧掲載)。本号ではこれまでにエコチル調査でわかってきた妊娠前、妊娠中の生活と健康についてまとめました。

「プレコンセプションケア」とは？

ふくしま子ども・女性医療支援センター/産婦人科医師の西野秀和先生に聞いてみよう！

英語で、プレは「～の前の」、コンセプションは「妊娠すること」です。プレコンセプションケアは、若い世代のみならず、将来のライフプランを考えて、自分たちの生活や体や心の健康を大切にすることを意味します。

これまでの研究で、赤ちゃんがおなかの中にいるときの環境が、大人になってからの健康にも影響することが分かっています。

プレコンセプションケアは、未来の子どもたちの健康にもつながる取組です。エコチル調査と似ていますね。

西野秀和
産婦人科医師
ふくしま子ども・女性医療支援センター
産婦人科部長 産科
エコチル調査福島県ユニバースセンター
副センター長

エコチル調査でわかってきた「プレコンセプションケア」の大切さ ～食事～

これは、体によい食品ですね。バランスの取れた食事が大切なね。

エコチル調査の質問票で、お母さんが妊娠する前や妊娠中の食事に回答してもらいました。その結果、妊娠中のお母さんの健康、赤ちゃんが生まれるときにより状態になりやすい食品や食事内容がわかってきました。

- 魚介類**
Michikawa T, et al. Br J Nutr. 2019
Yousef M, et al. Front Public Health. 2024
- 発酵食品**
みそ汁、納豆、ヨーグルトなど
Tanaka T, et al. Asia Pac J Clin Nutr. 2024
Ito M, et al. Environ Health Prev Med. 2019
- 抗炎症食(うえんしんしょうじく)**
細胞の老化につながる活性酸素の発生を抑制、消去する成分が多く含まれる魚・緑黄色野菜・ベリー類・アブラ類などの食事
Ishizaki M, et al. Matern Child Nutr. 2020
Kiyosaka H, et al. Nutrients. 2020
Kiyosaka H, et al. Pregnancy Hypertens. 2022
- 食物繊維の多い食品**
Omoto T, et al. Nutrients. 2024
Omoto T, et al. Pregnancy Hypertens. 2024
Myake K, et al. Front Nutr. 2023

エコチル調査の研究結果は、こちらからご覧いただけます

国境省エコチル調査ホームページ
「エコチル調査」
(国境省/パンフレット) (2024年4月)

エコチル調査でわかってきた 妊娠中の飲酒(お酒を飲むこと)・喫煙(たばこを吸うこと)・受動喫煙(たばこの煙にさらされること)の影響

▶飲酒
早産などになりやすい
Ohra S, et al. Sci Rep. 2019
Ishizaki M, et al. BJOG. 2019
Iwama N, et al. Hypertens Res. 2019

▶喫煙・受動喫煙
早産、先天形態異常になりやすい
Kupari N, et al. Environ Res. 2022
Tsuchida A, et al. Congenit Anom (Kyoto). 2021

子どもも体弱が小さくなりやすい
Yatsuda N, et al. Obstet Gynecol. 2023

感染症になりやすい
Hashimoto K, et al. J Epidemiol. 2023

妊娠中にお酒を飲むこと、たばこの煙にさらされることは、赤ちゃんの健康が悪くなりやすいことがわかりました。たばこは妊娠している女性が吸うことだけでなく、まわりの人たちの吸った煙も赤ちゃんの健康に悪い影響を与えます。妊娠に気づいたときには、すでに赤ちゃんは影響を受けています。プレコンセプションケアとして、妊娠前から、生活を整えることがとても大切です。

喫煙などで受動喫煙にさらされることがあります。

4歳半から6歳までのデータが加わった研究が始まります！

いつも、エコチル調査に協力していただきありがとうございます。これまでの4歳までのデータを利用して、妊娠、出産、乳児の健康・発達についての研究が多く報告されました。そのうちいくつかは、医師の診療ガイドラインに取り入れられ役立っています。もうすぐ、お子さまが4歳半から6歳までのデータが加わった研究が始まります！また、新しいことがたくさんわかってきます。今行っている調査に多くの方が協力してくれれば、将来にわたってさらなることがあり、それを役立てることができそうです。ぜひご協力をお願いします。

小学3年生までの質問票を集計した小児子エコチル調査でわかってきたこと vol.13も6月ごろお届け予定です。お楽しみに！

今利用している研究データ 追加される研究データ 今行っている調査

0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳 6歳 7歳 8歳 9歳 10歳 11歳 12歳 13歳

13歳以降の調査(Web質問票など)のご協力のおかげ！
お子さまが中学生になった後からでも13歳以降の調査にご参加いただけます。詳しくは、ユニバースセンターにお問い合わせください。

「13歳以降の調査について」
詳しくはこちらから
(エコチル★ふくしまホームページ)

お問い合わせ先
エコチル調査福島県ユニバースセンター福島本部事務所
TEL:024-547-1449 (平日 9:00-17:00 (年末年始を除く))
制作/発行
福島県立医科大学 エコチル調査福島県ユニバースセンター
〒960-1295 福島市元石1番地 公立大学法人福島県立医科大学
2025年3月発行

アンケートにご協力をお願いします
みなさまが関心のあるテーマなどご意見をお聞かせください。
アンケートフォームからご回答をお願いします。

(4) 学内関係者への成果・進捗報告会開催

令和7年3月3日 DOHaD の夜明け研究会との共催で、「エコチル調査成果・進捗報告会」(大学院授業要綱で規定する「共通必修科目(8)」として登録)をハイブリッド形式で開催した。エコチル調査からは福島県内での調査進捗状況および研究成果について3題報告した。また、小児科学講座 郷勇人先生より「エコチル調査に参加して」についてご講演いただいた。

(1) 掲載原著論文(令和7年3月31日時点)

● 全国データを用いた論文

1. 多嚢胞性卵巣症候群を有する女性の体格指数に基づく妊娠糖尿病リスク：エコチル調査
Okoshi C, Kyojuka H, Fukuda T, et al. Risk of Gestational Diabetes in Women With PCOS Based on Body Mass Index: The Japan Environment and Children's Study. *J Clin Endocrinol Metab.* 2025;110 (4) :e1167-e1172. doi:10.1210/clinem/dgae293
2. アトピー性皮膚炎合併妊娠と早産の関連
Isogami H, Murata T, Imaizumi K, et al. Association Between Atopic Dermatitis in Pregnant Women and Preterm Births: The Japan Environment and Children's Study. *Matern Child Health J.* 2024;28 (9) :1570-1577. doi:10.1007/s10995-024-03950-2
3. 妊娠前の食物繊維摂取量と妊娠高血圧症候群の関連：エコチル調査
Omoto T, Kyojuka H, Murata T, et al. Association between preconception dietary fiber intake and hypertensive disorders of pregnancy: The Japan Environment and Children's Study. *Pregnancy Hypertens.* 2024;37:101139. doi:10.1016/j.preghy.2024.101139
4. 乳幼児の睡眠体位と中耳炎との関係：エコチル調査
Kikuchi D, Imaizumi M, Murata T, et al. Relationship between sleep position and otitis media in infants: The Japan environment and children's study. *Auris Nasus Larynx.* 2024;51 (5) :880-884. doi:10.1016/j.anl.2024.08.001
5. 授乳と子どもの4歳までの神経発達：エコチル調査
Nishigori T, Nishigori H, Suzuki T, et al. Breastfeeding and Children's Cognitive Development up to the Age of 4 Years: The Japan Environment and Children's Study. *Breastfeed Med.* 2024;19 (12) :911-923. doi:10.1089/bfm.2024.0195
6. 子宮筋腫合併妊婦における尿中コチニンレベルと妊娠高血圧症候群との関連：エコチル調査
Kyojuka H, Omoto T, Murata T, et al. Association between urinary cotinine level and hypertensive disorders of pregnancy in women with uterine myoma: findings from the Japan Environment and Children's Study. *Hypertens Res.* 2025;48 (1) :102-109. doi:10.1038/s41440-024-01971-6
7. 妊娠前のBMIと乳腺炎の関連：エコチル調査
Murata T, Imaizumi K, Isogami H, et al. Pre-pregnancy body mass index and lactational mastitis: The Japan Environment and Children's Study. *Arch Gynecol Obstet.* 2025;311 (1) :79-86. doi:10.1007/s00404-024-07872-w
8. 妊娠前のタンパク質摂取と妊娠糖尿病との関連
Omoto T, Kyojuka H, Murata T, et al. Relationship between preconception protein intake and gestational diabetes mellitus: The Japan Environment and Children's Study. *Diabetes Metab Syndr.* 2025;19 (2) :103200. doi:10.1016/j.dsx.2025.103200
9. 母親が子どもと一緒に過ごす時のデジタルメディア使用時間と2歳児の神経発達との関連：エコチル調査
Ogata Y, Matsumoto T, Suzuki Y, et al. Association between the duration of mothers' digital media use while with their children and two-year-old children's development from

the Japan Environment and Children's Study. Sci Rep. 2025;15 (1) :10137. doi:10.1038/s41598-025-87430-9

10. さい帯血中カドミウム濃度と子どもの性比との関連：エコチル調査

Omoto T, Kyojuka H, Murata T, et al. Impact of cord blood cadmium concentration on neonatal secondary sex ratio: The Japan Environment and Children's Study. Sci Total Environ. 2025;970:179011. doi:10.1016/j.scitotenv.2025.179011

11. 突発性発疹症発症時期と熱性けいれんの関係

Okabe H, Hashimoto K, Yamada M, et al. Association between timing of exanthema subitum and febrile seizures: The Japan environment and children's study. PLoS One. 2025;20 (3) :e0321061. Published 2025 Mar 28. doi:10.1371/journal.pone.0321061

●追加調査

1. 遅発型妊娠高血圧腎症発症機序の解明を目的とした妊娠初期血清に対するメタボローム解析

Okoshi C, Kyojuka H, Omoto T, et al. Targeted metabolomic analysis of early-trimester serum identifies potential mechanisms for late-onset preeclampsia. J Matern Fetal Neonatal Med. 2024;37 (1) :2401970. doi:10.1080/14767058.2024.2401970

(2) 学会発表・講演等

●講演

1. 橋本浩一 ランチョンセミナー「RSV感染症から乳児を守るための新しいアプローチ」

第76回日本産科婦人科学会学術講演会（2024年4月21日、横浜市）

2. 山口明子 「続けることが、力になる」第155回東北連合産科婦人科学会学術講演会

（2024年5月18日、盛岡市）

3. 西郡秀和 「エコチル調査からわかったプレコンセプションケアの知見」福島県助産師会主催研修会（2024年6月1日、二本松市）

4. 西郡秀和 「地域で取り組むプレコンセプションケア」令和6年度第6回福島市保健業務研修会（2024年9月26日、福島市）

5. 西郡秀和 「エコチル調査から分かったプレコンセプションケアの知見」令和6年度2024年度JFPA/日本DOHaD学会共催セミナー（日本家族計画協会公益事業）

「DOHaD・プレコン・エコチル調査で考える次世代の未来—いま知ってほしいこと、できること。」（2024年10月12日、札幌市）

6. 西郡秀和 「両親と次世代の周産期メンタルヘルス～父親の育児参加推進の課題も含めて～」令和6年度石巻・登米・気仙沼地域周産期地域医療研修会（2024年11月22日、石巻市）

7. 郷勇人 「妊婦と新生児の検査値から学ぶ」福島産婦人科臨床フォーラム

「産婦人科臨床に直結したフォーラムへ」（第15回）（2024年11月5日～11日、オンデマンド配信）

8. 西郡秀和 「エコチル調査から分かった生まれてくる子どものための妊娠前から妊娠中の食生活の大切さ」福島県立川俣高校保健体育授業（2025年2月21日、川俣町）

9. 西郡秀和 「両親の周産期メンタルヘルス」令和6年度母子保健コーディネータースキルアップ研修会（奈良県健康推進課）（2025年3月12日、奈良市）

●□演

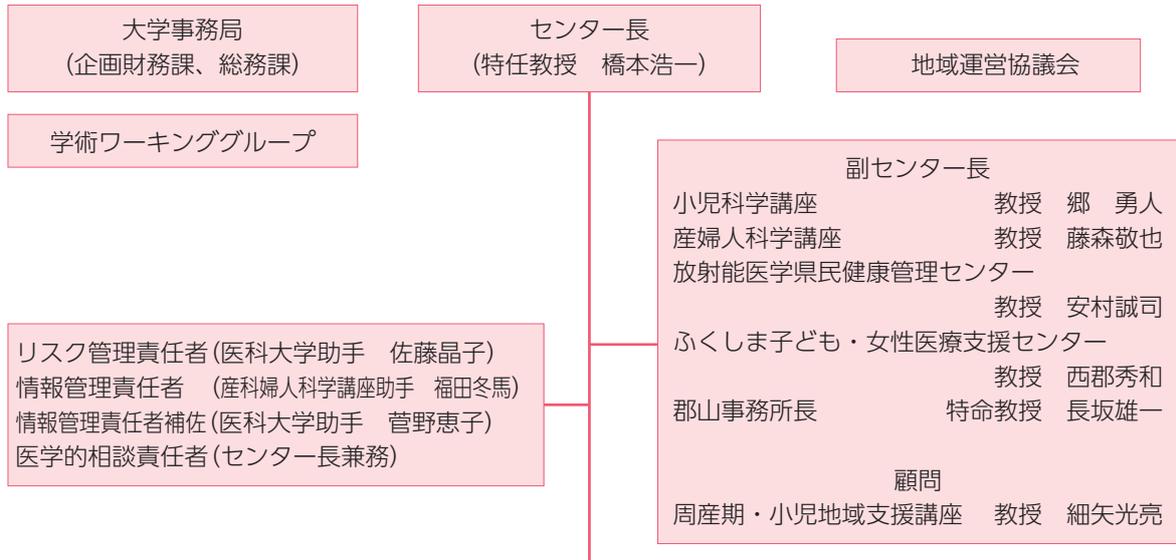
1. 大越千弘 Targeted metabolomic analysis of early-trimester serum identifies potential mechanism for late-onset preeclampsia 第76回日本産科婦人科学会学術講演会 (2024年4月20日、横浜市)
2. 小元敬大 妊娠前の食物繊維摂取量と早産の関連：エコチル調査 第48回日本女性栄養・代謝学会学術集会 (2024年8月22日、東京都千代田区)

5 資料編

令和6年度福島ユニットセンター組織図

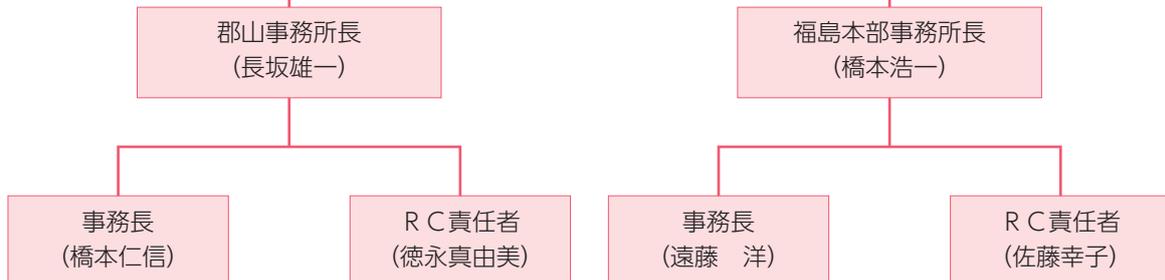
(令和7年3月31日現在)

福島県立医科大学



郡山事務所

福島本部事務所



【担当地域】

県中地域、県南地域
いわき地域、会津地域

【担当地域】

県北地域、相双地域

※事務局職員数 42名 (事務 19名 RC23名)

- ・ 福島本部事務所 20名 (事務 10名 RC10名)
- ・ 郡山事務所 22名 (事務 9名 RC13名)

エコチル調査福島ユニットセンターの沿革

H22.1.12～15	環境省、ユニットセンターを全国に公募
H22.3	環境省、「子供の健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）基本計画」を公表 コアセンター（独立行政法人国立環境研究所）、エコチル調査を開始
H22.4.12	環境省、本県を含む全国 15 ユニットを選定
H22.11	福島県立医科大学において福島ユニットセンターが本格稼働 （センター長：安村誠司、執務室：公衆衛生学講座研究室）
H23.1	RC職員を配置、エコチル調査の参加者登録（リクルート）開始 調査対象地区は、福島市、南相馬市、双葉郡の計 10 市町村
H23.3.11～	東日本大震災と東京電力福島第 1 原子力発電所事故の発生
H23.4.19	調査地区拡大（伊達市、伊達郡 3 町）に関するコアセンターヒアリング
H23.5.9	コアセンター運営委員会、調査地区拡大について承認
H23.5	福島本部事務所を 10 号館 5 階（旧カルテ庫）に整備
H23.6.7	伊達市及び伊達郡 3 町（桑折町、国見町、川俣町）のリクルート開始
H24.4	調査対象地域拡大等のため職員を増員（事務 8 人、RC 6 人）
H24.5.1	福島市内に新町オフィスを開設
H24.6	本県の調査対象地域を県内全域に拡大することを決定 （環境省の予算、人的サポートのほか国の主体的活動、各種支援業務の実施が前提）
H24.7	橋本浩一センター長の体制に移行
H24.8	副センター長兼郡山事務所長（環境省より出向）、次長兼郡山事務所事務長（郡山市 OB）を配置
H24.9	郡山事務所を開所し、その支所を白河市、会津若松市、いわき市に設置
H24.9.4	10 月からのエコチル調査全県化について記者発表
H24.10	調査対象地域を県内全 59 市町村に拡大、リクルート開始 職員を増員（平成 25 年度の人員体制：職員約 60 人、派遣職員約 10 人）
H25.6	事務局長兼福島本部事務所事務長（福島県 OB）を配置
H25.10	次長兼会計責任者（福島市 OB）、郡山事務所 RC 責任者を配置
H26.3	参加者登録（リクルート）の終了 参加者謝礼として電子マネー（nanaco）を導入
H26.10	詳細調査のリクルート開始
H26.11	詳細調査のうち訪問調査（生活環境調査）を開始
H26.12	11 月末で郡山事務所の 3 支所を廃止、協力医療機関における常駐業務も終了 これに伴い郡山事務所の職員数を縮減（平成 26 年度末は本部事務所と合せ職員 39 人）
H27.4	詳細調査のうち医学的検査・精神神経発達検査を開始 大学事務局（企画財務課）から職員を配置
H27.10	プロジェクト教員を配置
H29.1.30	1 月 29 日で新町オフィスを閉鎖し、現在の場所に業務を集約
H31.4	全体調査のうち学童期検査（小学校 2 年生対象）を開始
R 2.2	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面調査を中止 （再開：学童期検査 8 月、詳細調査 9 月、その後も感染状況を踏まえ弾力的に対応）
R 3.6	令和 3 年福島県沖地震で被災した郡山事務所を移転
R 4.7	参加者が 18 歳に達する令和 14（2032）年度まで、ユニットセンターの設置・運営の継続を決定
R 5.4	全体調査のうち学童期検査（小学校 6 年生対象）を開始し、予約システムを導入

エコチル調査協力医療機関・施設一覧 (令和7年3月31日現在)

1) 協力医療機関 (リクルート・妊娠・出産・出産後1か月調査)

	エリア	協力医療機関名	所在地	担当	
1	県北	日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	福島本部 事務所	
2		医療法人 明治病院	福島市		
3		医療法人 いちかわクリニック	福島市		
4		医療法人 ささや産婦人科	福島市		
5		(医)ABCクリニック 新妻産婦人科	福島市		
6		本田クリニック産科婦人科	福島市		
7		済生会福島総合病院	福島市		
8		一般財団法人大原記念財団 大原総合病院	福島市		
9		公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	福島市		
10		大川レディースクリニック	福島市		
11		菅野産婦人科医院	福島市		
12		セイントクリニック	伊達市		閉院
13		二本松ウイメンズクリニック	二本松市		
14		社会保険福島 二本松病院(現:JCHO二本松病院)	二本松市		平成25年3月31日終了
15		渡辺医院	二本松市		
16	医療法人 慈久会 谷病院	本宮市			
17	相双	医療法人 あらき産婦人科クリニック	相馬市		
18		南相馬市立総合病院	南相馬市		
19		レディースクリニックはらまち	南相馬市		
20		西潤マタニティクリニック	南相馬市		
21		原町中央産婦人科(現:南相馬中央医院)	南相馬市		
22		医療法人社団青空会 大町病院	南相馬市		
23		双葉厚生病院	福島市飯坂		
24		今村クリニック	双葉郡浪江町		
25		公立相馬総合病院	相馬市	新生児搬送時の検体採取のみ	
26		たなかレディースクリニック	郡山市		
27	医療法人 岡崎産婦人科(現:岡崎バースクリニック)	郡山市			
28	公益財団法人湯浅報恩会 寿泉堂総合病院	郡山市			
29	塚原産婦人科内科外科医院	郡山市			
30	トータルヘルスクリニック	郡山市			
31	県中	一般財団法人太田総合病院附属 太田西ノ内病院	郡山市		
32		公益財団法人 星総合病院	郡山市		
33		一般財団法人脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院	郡山市		
34		古川産婦人科医院	郡山市		
35		独立行政法人国立病院機構 福島病院	須賀川市		
36		小森山産婦人科医院	須賀川市	閉院	
37	県南	片倉医院産科婦人科	白河市		
38		福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院	白河市		
39		福島県厚生農業協同組合連合会 塙厚生病院	塙町		
40	岩佐医院	茨城県久慈郡	福島県民のみリクルート		
41	会津	舟田クリニック産科婦人科	会津若松市	閉院	
42		一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院	会津若松市		
43		一般財団法人温知会 会津中央病院	会津若松市		
44		福島県厚生農業協同組合連合会 坂下厚生病院	会津坂下町		
45	いわき	医療法人栄真会 村岡産婦人科医院	いわき市		
46		渡辺産科婦人科	いわき市		
47		かたよせクリニック産科・婦人科 (現:医療法人かたよせウイメンズクリニック)	いわき市		
48		NOBU マタニティクリニック	いわき市	転院による検体採取のみ	
49		いわき市立総合磐城共立病院(現:いわき市医療センター)	いわき市		
50		森田泌尿器科産婦人科医院(現:森田泌尿器科医院)	いわき市		
51		つくだ町産婦人科医院	いわき市	閉院	
52		月川レディースクリニック	いわき市		
53		佐藤マタニティー・クリニック	いわき市		
				郡山事務所	

2) 詳細調査協力医療機関および協力施設 ■は令和6年度検査実施医療機関

エリア	協力医療機関名	所在地	担当
■	1 公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	福島市	福島本部 事務所
	2 一般財団法人 大原記念財団 大原総合病院	福島市	
	3 公立藤田総合病院	国見町	
	4 医療法人 いそめこどもクリニック	福島市	
	5 医療法人 いちかわクリニック	福島市	
	6 医療法人 おひさま子供クリニック	福島市	
	7 医療法人 竹内こどもクリニック	福島市	
	8 医療法人 武田小児科	伊達市	
	9 土川内科小児科	二本松市	
■	10 公立相馬総合病院	相馬市	
	11 医療法人 慧生会 菜のはなこどもクリニック	相馬市	
■	12 一般財団法人 太田総合病院附属 太田西ノ内病院	郡山市	郡山 事務所
	13 公益財団法人 星総合病院	郡山市	
	14 独立行政法人 国立病院機構 福島病院	須賀川市	
	15 医療法人 はぐくみ いいもり子ども医院	郡山市	
	16 医療法人 健生会 おおがもこどもクリニック	郡山市	
	17 医療法人 おおのこどもクリニック	郡山市	
	18 医療法人 かわなこどもクリニック	郡山市	
	19 医療法人 仁寿会 菊池医院	郡山市	
	20 医療法人 久米こどもクリニック	郡山市	
	21 医療法人 英徳会 さかい小児科クリニック	郡山市	
	22 医療法人 喜信会 じんキッズクリニック	郡山市	
	23 医療法人 宣誠会 すみこしこどもクリニック	郡山市	
	■	24 福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院	
25 福島県厚生農業協同組合連合会 塙厚生病院		塙町	
26 医療法人 健恵会 ねもとキッズクリニック		白河市	
■	27 医療法人 わたなべ子どもクリニック	白河市	
	28 一般財団法人 竹田健康財団 竹田総合病院	会津若松市	
	29 福島県厚生農業協同組合連合会 坂下厚生総合病院	会津坂下町	
■	30 医療法人 いと子どもクリニック	会津若松市	
	31 医療法人 清信会 やまみこどもクリニック	会津若松市	
■	32 福島県立南会津病院	南会津町	
■	33 いわき市医療センター	いわき市	
	34 子どもの家	いわき市	
	35 第二子どもの家M・A・Y	いわき市	
	36 あおぞらキッズクリニック	いわき市	
	37 医療法人 森のこどもクリニック	いわき市	
	38 医療法人 おおはらこどもクリニック	いわき市	

3) 疾患情報登録協力医療機関 ■は令和6年度二次調査実施医療機関

エリア	協力医療機関名	所在地	担当	
1	一般財団法人 大原記念財団 大原総合病院	福島市	福島本部 事務所	
2	公立大学法人 福島県立医科大学附属病院	福島市		
3	福島医療生活協同組合 医療生協わたり病院	福島市		
4	日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市		
5	医療法人 湖山荘 あずま通りクリニック	福島市		
6	医療法人 慶愛会 文化通りやぎうちクリニック	福島市		
7	福島県中央児童相談所	福島市		
8	医療法人 いそめこどもクリニック	福島市		
9	いがらしキッズクリニック	福島市		
10	ほりこし心身クリニック	福島市		
11	すえなが内科小児科医院	福島市		
12	公立藤田総合病院	国見町		
13	こばやし子ども・内科クリニック	伊達市		
14	医療法人 湖山荘 福島松ヶ丘病院	伊達市		
15	医療法人 クラプトン 佐久間内科小児科医院	二本松市		
16	森小児科医院	二本松市		
17	医療法人 落合会 東北病院	本宮市		
18	すぎやまこどもクリニック	相馬市		
19	公立相馬総合病院	相馬市		
20	公益財団法人 金森和心会 雲雀ヶ丘病院	南相馬市		
21	ほりメンタルクリニック	南相馬市		
22	公益財団法人 星総合病院	郡山市	郡山 事務所	
23	福島県総合療育センター	郡山市		
24	公益財団法人 金森和心会 針生ヶ丘病院	郡山市		
25	一般財団法人 太田総合病院附属 太田西ノ内病院	郡山市		
26	医療法人 稔聖会 こおりやまほっとクリニック (閉院)	郡山市		
27	医療法人 慈圭会 すがのクリニック	郡山市		
28	社会医療法人 あさかホスピタル	郡山市		
29	公益財団法人 湯浅報恩会 寿泉堂総合病院	郡山市		
30	一般財団法人 太田総合病院附属 太田熱海病院	郡山市		
31	一般財団法人 脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院	郡山市		
32	南東北医療クリニック	郡山市		
33	わんぱくさいとうこども医院	郡山市		
34	医療法人 明信会 今泉西病院	郡山市		
35	公立岩瀬病院	須賀川市		
36	独立行政法人 国立病院機構 福島病院	須賀川市		
37	福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院	白河市		
38	福島県立矢吹病院 (現:福島県立ふくしま医療センターこころの杜)	矢吹町		
39	公立大学法人 福島県立医科大学 会津医療センター	会津若松市	会津	
40	一般財団法人 竹田健康財団 竹田総合病院	会津若松市		
41	医療法人 明精会 会津西病院	会津若松市		
42	一般財団法人 温知会 会津中央病院	会津若松市		
43	医療法人 昨雲会 飯塚病院	喜多方市		
44	公益財団法人 磐城済世会 舞子浜病院	いわき市		いわき
45	いわき市医療センター	いわき市		
46	おおはらこどもクリニック	いわき市		
47	公立昭和病院	東京都	福島本部 事務所	
48	生育医療研究センター	東京都		
49	順天堂大学医学部附属 練馬病院	東京都		
50	東京北医療センター	東京都		
51	山形大学医学部附属病院	山形県		
52	茨城県立こども病院	茨城県		
53	自治医科大学附属病院	栃木県		
54	新潟県立中央病院	新潟県		
55	仙台医療センター	宮城県		
56	仙台赤十字病院	宮城県		
57	東北大学病院	宮城県		
58	宮城県立こども病院	宮城県		

4) 学童期検査協力医療機関 ■ は令和6年度検査実施医療機関

エリア	協力医療機関名	所在地	担当
1 2 3 4 5 6 7 8 9 県北	一般財団法人大原記念財団 大原総合病院	福島市	福島本部 事務所
	日本赤十字社 福島赤十字病院	福島市	
	公立藤田総合病院	国見町	
	医療法人 いそめこどもクリニック	福島市	
	医療法人 いちかわクリニック	福島市	
	医療法人 おひさま子供クリニック	福島市	
	医療法人社団真子会 すやま小児科	福島市	
	きらり健康生活協同組合 とやのクリニック	福島市	
	都小児科医院	福島市	
10 11 12 13 相双	公立相馬総合病院	相馬市	
	南相馬市立総合病院	南相馬市	
	すぎやまこどもクリニック	相馬市	
	医療法人 慧生会 菜のはなこどもクリニック	相馬市	
14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 県中	一般財団法人太田総合病院附属 太田西ノ内病院	郡山市	郡山 事務所
	公益財団法人 星総合病院	郡山市	
	独立行政法人国立病院機構 福島病院	須賀川市	
	医療法人はぐくみ いいもり子ども医院	郡山市	
	医療法人 かわなこどもクリニック	郡山市	
	医療法人 久米こどもクリニック	郡山市	
	医療法人英徳会 さかい小児科クリニック	郡山市	
	医療法人喜信会 じんキッズクリニック	郡山市	
	医療法人宣誠会 すみこしこどもクリニック	郡山市	
	医療法人 渡辺美佳子こどもクリニック	郡山市	
	わんぱくさいとうこども医院	郡山市	
	東部台こどもクリニック	田村市	
	福島県厚生農業協同組合連合会 白河厚生総合病院	白河市	
	医療法人健恵会 ねもとキッズクリニック	白河市	
	医療法人 わたなべ子どもクリニック	白河市	
医療法人 みうら小児クリニック	白河市		
医療法人健恵会 にしごうキッズクリニック	西郷村		
31 32 33 34 35 会津	一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院	会津若松市	
	福島県厚生農業協同組合連合会 坂下厚生総合病院	会津坂下町	
	医療法人清信会 やまみこどもクリニック	会津若松市	
	扇町渡部小児科・アレルギー科医院	会津若松市	
	医療法人社団大志会 矢吹医院	猪苗代町	
36 37 38 39 40 南会津	福島県立南会津病院	南会津町	
	いわき市医療センター	いわき市	
いわき	あおぞらキッズクリニック	いわき市	
	医療法人 おおはらこどもクリニック	いわき市	
	福田小児科医院	いわき市	

エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況 (令和6年4月～令和6年9月末時点)

調査実施機関名：福島ユニットセンター

評価時点	令和6年10月25日
回答者	氏名（橋本 浩一） 役職（センター長）

※計画実施欄の番号右側（ ）内記号定義 K：Kaizen（計画拡充・改善） N：New（新規計画）

ア. 参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組	
(P) 計画 (D) 実施	<p>○計画 1 (K) 参加者の調査参加へのモチベーション維持</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・13歳までの調査：参加者減少率を1%以内とする ・13歳以降調査：13歳以降調査の継続参加者構成割合を13歳までの調査と同程度に維持することができる
	<p>取組 1-1 (K) ふれあい会（参加者対象イベント）の開催（図1）</p> <p>猪苗代町にある国立磐梯青少年交流の家プログラムを利用し親子会津漆蒔絵制作体験を開催した。センター長による「13歳以降の調査継続勧奨」に関する講話の時間を設け、参加者との間で顔の見える双方向の交流を図る内容とした。</p>
	<p>取組 1-2 (K) 環境セミナー（参加者対象イベント）の開催</p> <p>参加者親子を対象に環境に関する現状・課題を学び合う機会として、県内環境関連施設で施設の見学、専門家による講話を継続して計画した。令和6年度は、郡山市クリーンセンター体感型環境学習施設で「地球温暖化と5R」をテーマに令和7年2月に親子を対象に開催を計画した。</p>
	<p>取組 1-3 (K) こどもアンケート回答へのお礼メッセージ（図2）</p> <p>子どもとのコミュニケーションの機会として、回答への感謝の気持ちを伝えるお礼メッセージをグリーティングカード（ポップアップカード）で送付しており、参加児氏名は職員が心を込めて手書きしている。</p>
	<p>取組 1-4 (K 一部 N) 13歳以降調査継続率の向上</p> <p>ア) 小学6年生へエール集配付 (K) 小学6年生へユニットセンターからの応援メッセージを伝えるオリジナル・エール集「キミたちへ贈る言の葉」（図3）を作成し、小学6年学年質問票へ同封した。</p> <p>イ) 未同意者へ月1回リマインドの実施 (N) 案内資料発送後1か月毎にハガキでリマインドを実施した。ハガキは通常サイズ、大判サイズ等媒体に変化をつけた。従来の質問票調査との変更点の一覧や期間限定プレ質問票回答特典などを分かりやすくまとめた資料を同封した。</p> <p>ウ) 相談対応の拡大 (K) 参加者が連絡をしやすい平日夜間、土日昼間の時間帯に電話対応時間を設定し実施した。また、学童期検査会場にて相談対応スタッフを増員配置し、13才以降調査継続勧奨および手続サポートを実施した。下半期は県内各地域の商業施設等を利用した相談対応を計画した。</p>

	<p>工) 地域運営協議会の体制強化 (K) 13歳以降調査を円滑に進めるため、中学校教育関係者との連携が必要と考え、昨年度下半期に県中学校校長会を訪問、及び、中核市中学校校長会においてエコチル調査について説明した。今年度は県内8地域の中学校校長会役員を訪問し、調査説明、および地域運営協議会への参画を依頼した。</p> <p>○計画2 (K) 質問票返送率の維持・向上 指標 返送方法の工夫により、質問票返送率を維持することができる</p> <p>取組 2-1 (K) 学年質問票返送依頼方法の工夫 返送時期の早期化、返送率向上のため、学年質問票発送後から1か月後にハガキでリマインドを行い、2か月後に質問票の再送を行った。</p> <p>取組 2-2 (K) 質問票等郵送用封筒の開封率向上の取組 開封率向上を狙い、刃物を使わず開封可能なミシン目加工封筒を、質問票調査用に続き、学童期検査資料郵送用封筒(図4)にも導入した。 また、質問票封筒開封率向上及び参加児同士のコミュニケーションが学校等で深まり、調査参加意識が醸成されることを期待し、全学年質問票にカラフル付箋セット(図5)を封入した。封筒に「プレゼントが入っているよ」と印字して開封を促した。</p> <p>取組 2-3 (K) 年齢質問票返送キャンペーン「カスタマイズボールペン」 12歳年齢質問票(食事調査票あり分量が多い)返送率向上対策として、①質問票発送時に5色芯ボールペンホルダーと赤黒リフィル芯2本を進呈し、②質問票返送時、リフィル芯3本の色希望用紙を同封、③希望色3本を進呈し、カスタマイズボールペンを完成させるキャンペーンを継続実施した(図6)。</p>
(C) 評価	<p>○計画1 調査参加のモチベーション維持 上半期実施分ほぼ達成</p> <p>取組 1-1 アンケートでは、「子どもに役立つ調査結果や13歳以降調査の内容を直接教えてもらった」など、直接コミュニケーションを評価する感想を得た。</p> <p>取組 1-4 工) 中学校校長会役員への説明の結果、協議会への参画を快諾いただいたことから、13歳以降調査等への取組強化につなげていく。</p> <p>取組により、9月末時点の子ども現参加者数は11,845人、<u>現参加率(転出入調整)は、92.8%(前年度同月末から0.3%減少)であり、目標を達成できた(表1)。</u></p> <p>13歳以降調査については、9月末現在の本年度の全体のログイン数に対する当ユニットセンターログイン数の構成割合は8.0%で、全体の配信対象参加者数に対する当ユニットセンター参加者構成割合(7.2%)以上を維持している。なお、代諾者ログイン率31.0%、積極的継続可の割合30.0%とともに、全体の代諾者ログイン率(27.7%)、積極的継続可の割合(26.9%)と比較して高かった。</p> <p>取組により参加児のモチベーション向上、保護者の参加意欲向上につながったと考えられるが、13歳以降調査継続につながるよう更なる強化が必要と考える。</p>

	<p>○計画2 質問票返送率の維持・向上</p> <p><u>上半期実施分一部達成</u> 参加者からカラフル付箋について「便利で使わせてもらっています」、「ケース付きで大変喜んでいきます」などの感想が寄せられている。</p> <p>12歳質問票の返送状況から、一定の取組の効果は認められるが、<u>今後は小学校卒業と重なる年度末のスケジュールを考慮しながら対応する必要がある</u>（図7）。</p> <p>取組を通して、質問票回収率の維持・向上につながったと考えるが、<u>13歳以降調査継続にも影響があることから、様々な工夫を行いながら取組む必要がある</u>。複数の業務と並行してより多くの方に継続していただける取組を計画する。</p>
(A) 改善	<p>○計画1 調査参加のモチベーション維持</p> <p>これまでの取組を継続するとともに、調査内容を共有するため、小学3年生までの質問票回答集計結果をまとめた小冊子の発行（イ. 計画3参照）を計画した。</p> <p>次年度、13歳調査継続意向確認及び学童期検査対象となる小学6年生は約6,000人と非常に多くなる（今年度の約3倍）ので、より多くの方に継続していただける取組を計画する。</p> <p>○計画2 質問票返送率の維持・向上</p> <p>今後もアンケートや対面調査の機会に、参加親子に取組への意見、感想を確認しながら、効果的な取組を進める。</p>

イ. 成果の社会還元取組	
(P) 計画 (D) 実施	<p>「次世代の子どもが健やかに育つ環境の実現」（上位目標）に向け、エコチル調査は、成果を国民に最大限還元することが期待されている。</p> <p>調査実施機関として着実な調査実施とともに、調査フェーズ（「エコチル調査広報戦略指針」より）に沿い、参加者をはじめ福島県民へエコチル調査継続の周知及び成果を広く社会へ還元することを目指した。</p> <p>○計画1 (K) 学術分野における成果還元</p> <p><u>指標 中心仮説を含む積極的な論文発表ができる</u></p> <p>取組 1-1 (K) 全学の研究活性化を通じた学術論文発表促進</p> <p>全学での学術成果発表促進のため、学術ワーキンググループ（以下、WG）を運営し、定例勉強会（毎月）・学内査読・研究相談等を実施した。定例勉強会では、令和5年度課題募集で応募した中心仮説課題について検討した。</p> <p>また、データ利用者のおよそ3分の1が課題申請に至らない状況に対して<u>解析用データセット作成支援員を配置し、新規データ利用者へのデータ取扱オリエンテーション実施、希望者への相談対応を行った。</u></p> <p>エコチル調査延長に伴い将来にわたり全学からWGへの研究者の参加が重要と考え、全教職員対象一斉メール配信（月1回）ではエコチル調査論文紹介に加え調査期間の延長をお知らせし、研究協力の呼びかけを行った。</p> <p>取組 1-2 (K) 学術の発展・教育活動を通じた人材育成への貢献</p> <p>エコチル調査の成果等（成果発表届出対象）を含む、学会発表2件、学会シンポジウム・セミナー・研修会等講演4件を行った。</p>

○計画 2 (K) 参加者・県民の環境・健康への関心が高まる成果共有

指標 ・参加者・県民へ調査継続及び成果の周知機会を持つ
・環境・健康への関心へつながる取組を実施し、高い（80%以上）満足度（「よかった」、「楽しかった」など）を得る（2-1・2-2）

取組 2-1 (K) | 参加児含む県民の調査認知度を高めるイベント開催

感染症対策の緩和により令和5年度以降は参加児を含む一般の親子を対象に県内各地域資源を活用して対面で継続した体験・学びにつながる企画を当面2027年度（全ての参加者が12歳に達する年度）まで継続することとした。

2024年度は10月にACGエレクトロニクス 郡山カルチャーパーク（郡山市観光交流振興公社）にて地域スポーツスクールの協力により「エコチル★ふくしま おやこでダンス教室」を企画し参加者を募った。

取組 2-2 (K) | 研究成果還元資料の作成・配付

「エコチル調査からわかってきたこと エコチル★ふくしま版」（A4サイズ1枚両面（小学校のお知らせ仕様）を年1回発行し、ニューズレターに同封し配付した。また、一般向けにホームページへ掲載して周知を図るよう計画した。

第3号は令和6年3月末に発行し、読後アンケートを実施した。第4号は令和7年3月発行予定である。

取組 2-3 (K) | 県民（一般）との成果共有、調査に対する理解の醸成

自治体等主催イベント2イベント（郡山市こどもまつり（5月）、大学主催地域健康イベント（11月））にブース出展し、調査や成果の周知を計画した。

取組 2-4 (N) | 「調査からわかったプレコンセプションケア」講演

令和5年度下半期より、福島ユニットセンター副センター長（産婦人科医）によるエコチル調査から得られたプレコンセプションケアに関する知見について、県内保健医療従事者および一般を対象にした講演を3回実施した。

○計画 3 (K) 県内学校保健・教育分野との連携強化

指標 学校保健・教育分野の地域運営協議会委員と調査の円滑な実施や成果還元において連携が強化できる

取組 3-1 (K) | 中学校教育関係者との関係構築

ア. 参加者の調査参加へのモチベーション維持や質問票回収率の維持・向上の取組
計画1-4 工) 参照。

取組 3-2 (K) | 質問票回答集計結果をまとめた小冊子掲載データの活用

令和4年度に作成した質問票回答集計結果をまとめた小冊子（以下、小冊子）集計結果データは利用可能と申し添え、データ提供用に各図表の画像（jpeg/png形式）ファイルを準備した。

<p>(C) 評価</p>	<p>○計画 1 学術分野における成果の還元 【上半期ほぼ達成】 学術 WG 構成員は、全学より 18 講座等から 77 名を登録した（前年度より 3 部門、9 名増（新規 13 名参加））。上半期受理された論文は 5 編であった（図 8）。今後エコチル調査全国データを用いた論文を執筆した 2 名が学位審査申請を予定している。9 月末までに中心仮説課題の J ECS-Group 回覧を 6 題行い指標達成に近づいた。</p> <p>○計画 2 参加者及び県民の環境・健康への関心が高まる成果共有 【上半期実施分ほぼ達成】 2-1 おやこダンス教室は、応募者多数で抽選し県内親子 46 組 127 名に参加案内を送付した。2-2 読後アンケート回答（41 件）では 98% が内容に「満足」と回答があった。2-3 会場アンケートでは 224 人（70.1%）が「エコチル調査を知らなかった」と回答があり、周知する機会となった。 下半期実施予定の 2-1、2-2 においても高い満足度を得られるよう計画実施する。</p> <p>○計画 3 県内学校保健・教育分野との連携強化 【上半期ほぼ達成】 3-2 画像ファイルを作成したが、これまでに小冊子データ利用問合せはなかった。</p>
<p>(A) 改善</p>	<p>○計画 1 学術分野における成果の還元 下半期には 6 歳時固定データのリリースが予定されており、より多くの関係者が執筆課題申請することを目指して取り組む。</p> <p>○計画 2 参加者及び県民の環境・健康への関心が高まる成果共有 次年度も 13 歳以降調査の継続につながるよう参加児を含む県民にエコチル調査継続について周知、理解いただくよう取り組む。中学生になった参加者との成果共有について次年度以降強化する。今年度コアセンターが作成したポスター、リーフレットを活用し県内の調査認知度を高めるよう取り組む。</p> <p>○計画 3 県内学校保健・教育分野との連携強化 令和 7 年度にエコチル調査からわかってきたこと vol.3（小学生を対象とした質問票単純集計小冊子）を集計項目について委員に協力いただき発行する。さらに、冊子内容を学校での児童、保護者向けの保健資料としての活用を提案する</p>

福島ユニットセンター PDCA サイクルにおける取組状況 参考資料

図1 R6年度ふれあい会「☆すこし早い夏休み 蒔絵体験にチャレンジ! ☆」



「わかってきたこと」の講話風景

蒔絵を書いたお皿・お椀



図2 子どもアンケート回答へのお礼グリーティングカード（毎年デザイン変更）



イラストが飛び出て、立てて飾れる仕様

図3 オリジナル・エール集「キミたちへ贈る言の葉」



名言や心に響く言葉からユニットセンター職員が小学6年生に届けたいメッセージを選んだ。挿絵はイラストレーターに、エール集の主旨を伝え依頼した。

図4 学童期検査資料郵送用封筒



図5 「カラフルふせんセット」



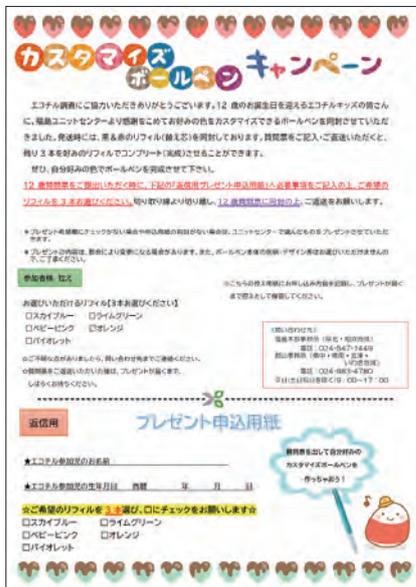
学年質問票郵送封筒に封入して進呈

図6 カスタマイズボールペンキャンペーン (12歳質問票)

① 12歳質問票郵送時、5色芯が入るボールペンホルダーと黒赤2色のリフィル芯を封入して進呈



② 12歳質問票返送時、自分の好みのリフィル芯色を記入し、申込用紙を返送



③ 希望色のリフィル芯3本を進呈



リフィル芯の色は、スカイブルー、ライムグリーン、ベビーピンク、オレンジ、バイオレットの5色から選択

届いたリフィル芯を入れたらカスタマイズボールペンの完成

リフィル希望色内訳

令和6年10月28日時点

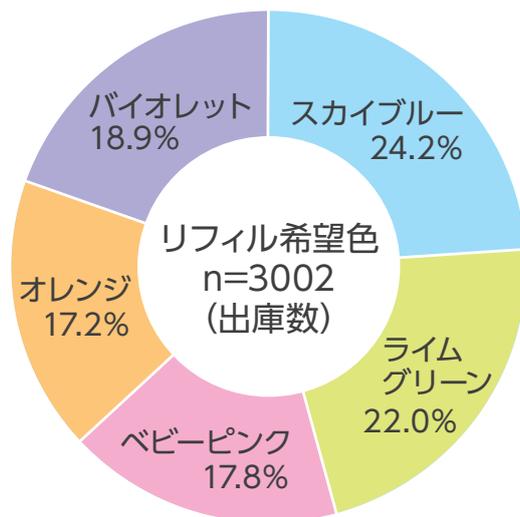
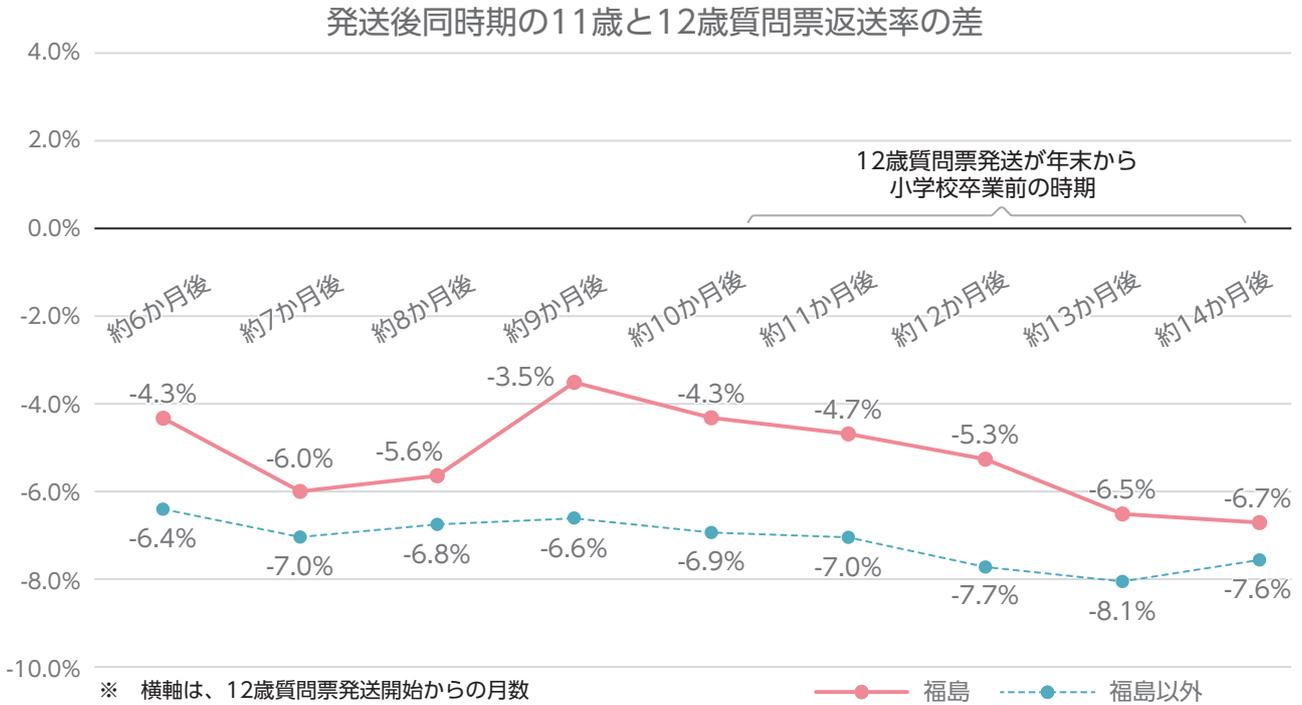


表1 子ども現参加者数 (令和5年9月末時点、令和6年9月末時点)

対象者	転出	転入	本人死亡	代諾者消失	住所不明	その他	現参加者数	現参加率 (転出入調整)
令和5年9月末時点	230	144	25	780	65	13	11,879	93.1%
令和6年9月末時点	244	150	25	822	67	13	11,845	92.8%

図7 11歳と12歳質問票返送状況の差（12歳質問票キャンペーン評価）

- ・実務担当者 Web 会議質問票調査進捗状況（送付後6か月）資料より、11歳・12歳質問票返送割合データを利用した。
- ・11歳質問票は2023年1月から9月、12歳質問票は2024年1月から9月の情報を用いた。
- ・発送後の期間が同時期の月ごとの返送割合の差（11歳質問票-12歳質問票）を算出した。

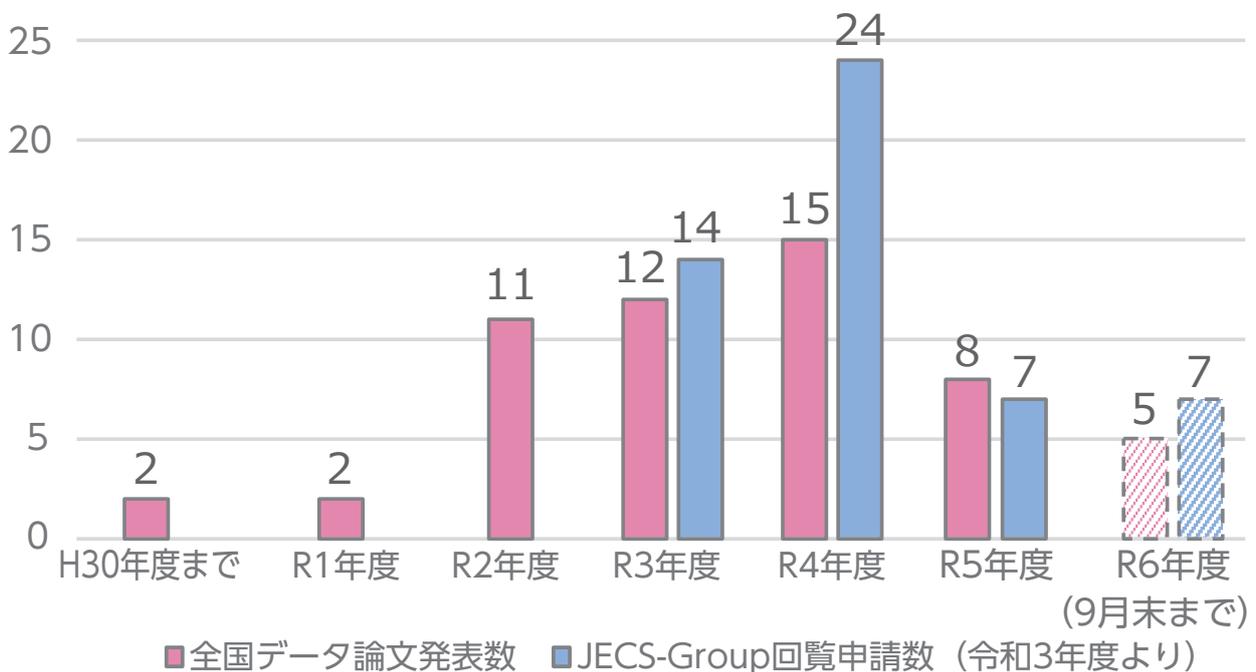


12歳質問票発送開始後しばらくは返送割合低下を押しとどめていた。しかし、小学校卒業前の年末以降に発送した時期あたりから返送割合減少が見られた。

図8 成果発表状況

(令和6年9月30日時点)

(編)



ニューズレターの発行

2024年秋・冬号(令和6年11月発行)

発行/エコチル調査福島ユニットセンター
No.41

エコチル★ふくしま

こぼちる通信

2024年秋・冬号

個人情報保護のための画像処理をして掲載しております

個人情報保護のための画像処理をして掲載しております

個人情報保護のための画像処理をして掲載しております

個人情報保護のための画像処理をして掲載しております

個人情報保護のための画像処理をして掲載しております

おひるのついで
パドモントンが空しく夢中!お母さんにはお母さん!

しゅわん
お母さん!自分でお母さん!お母さん!

あさひ
バスケットボールに夢中!お母さん!お母さん!

あさひ
バスケットボールに夢中!お母さん!お母さん!

〇〇に夢中!! フォトコーナー

たくさんのご応募、ありがとうございます。皆さまの夢の中も、本当にたくさんあります。フォトコーナーは次号で最後となりますので、皆さまの夢の中も、この号で閉じていただきます。

掲載された方には、**カット500円分**をプレゼントします。

Topic

- 遊んで!学んで!エコチル★キッズ!
- ★福島県の郷土料理について調べてみました
- ★エコチル★ふくしま 親子ふれあい会
- ★第7回エコチル★ふくしま環境セミナーを開催しました!
- ★エコチル★ふくしま おやこでダンス教室
- ★親子で楽しく体を動かすことができました!

2025年度小学6年生と保護者の皆さまへご案内

★学童期検査が2025年3月から始まります!

★第7回エコチル★ふくしま環境セミナーを開催しました!

★エコチル調査福島ユニットセンターのお知らせ

★ごあいさつ

Japan Eco & Child Study

エコチル調査

2025年度小学6年生と保護者の皆さまへご案内

学童期検査のお知らせ

新小学6年生を対象とした学童期検査が**2025年3月**から始まります! 2月より案内資料を地域ごとに順次発送いたします。

※身体測定・CAT検査と血液検査の2つの検査があり1日で実施(両日検査)と2日に分ける別日検査のどちらかを選択することができます。

検査内容

身体測定・CAT検査

- 身長 体脂肪率
- 体重 肺活量
- 体組成 骨密度
- CAT検査

体の部位の筋肉量・体脂肪率
結果を当日返却

血液検査

- 尿検査
- 尿酸
- 血糖
- コレステロール
- 鉄
- ビタミン
- 血中

アレルギー検査
アレルギー検査の結果を当日返却

同日検査 ※2つの検査を1日で実施 会場:福島県立医科大学附属病院

エコチル調査は、1人1人のご協力が必要な検査です。皆さまのご参加をお待ちしております。2024年度小学6年生の皆さま、学童期検査(小学6年生)のご協力ありがとうございました!

13歳以降調査がスタートしています!

中学1年生のエコチルキッズと保護者の皆さまは2024年4月~専用アプリより配信されるWeb質問票でご回答いただいています。

中学生の皆さまと保護者の皆さま、13歳以降調査は開始しておりますが、Web質問票の参加はいつでも大歓迎です!お気軽にお問い合わせください!

エコチル★ふくしまホームページにて、13歳以降調査の詳細な説明書や動画を公開しております。

遊んで!学んで!エコチル★キッズ! vol.10

福島県の郷土料理について調べてみました

会津のてごや

てごやは、寒い深達りの器(手塩)に、貝柱のだしでさくらげやわらび、里芋などをしょうゆや塩で味付けして煮込んだ貝柱のお汁です。名前の由来は「こじゅうのつな」がなまったものだとされています。法事やお祝いなどの大切な日に食べられていて、貝柱は7または9種類にすると、奇数で縁起が良いとされています。作り方も家庭によってちがうので、それぞれの家庭でちがう味が楽しめます。

材料:2人分	分量	材料:2人分	分量
● 貝柱	2個	● さくらげ	100g
● 糸こんにゃく	1/4玉	● 手しんじけ	1枚
● 白豆(まめ)	大さじ4杯	● にんじん	1/4本
● 鶏骨(骨)	わらび	● かつおだし汁	1カップ
● しょうゆ	大さじ1杯	● 塩	少々

作り方

- 下ごしらえとして、貝柱は、1カップの水に一晩漬けるかほくほくしておく。さくらげは洗って、お水にさらす。
- 鍋に貝柱と糸こんにゃく、白豆、鶏骨、かつおだし汁、しょうゆ、塩を入れて煮立たせる。
- 煮立たら、さくらげ、手しんじけ、にんじんを入れて煮立たせる。
- 煮立たら、わらび、かつおだし汁、しょうゆ、塩を入れて煮立たせる。
- 煮立たら、さくらげ、手しんじけ、にんじんを入れて煮立たせる。
- 煮立たら、わらび、かつおだし汁、しょうゆ、塩を入れて煮立たせる。

中通りのいかにんじん

いかにんじんは、細く切ったあじかにんじんを、しょうゆやみりんで作った甘辛い汁に漬けた料理です。食感がよく、ごはんが進みやすいため人気があります。もともとは福島県での保存食として作られていましたが、今では一年中食べられ、正月料理としても親しまれています。また、いろいろな料理にアレンジされたり、お土産やふるさと納税の品としても定番になりつつあります。

材料:4人分	分量	材料:4人分	分量
● あじかにんじん	大1杯	● しょうゆ	大1杯
● にんじん	1本	● みりん	大1杯
● だし	大さじ2杯	● 塩	少々
● しょうゆ	大さじ2杯	● 塩	少々

作り方

- あじかにんじんは縦半分に切ってから細かく千切りにする。
- にんじんは縦半分に切ってから細かく千切りにする。
- 鍋にあじかにんじん、にんじん、だし、しょうゆ、塩を入れて煮立たせる。
- 煮立たら、あじかにんじん、にんじんを入れて煮立たせる。
- 煮立たら、あじかにんじん、にんじんを入れて煮立たせる。

遊んで!学んで!エコチル★キッズ!

エコチル★ふくしま 親子ふれあい会を開催しました

2024年7月7日(日)国立磐梯青少年交流の家(猪苗代町) 27組94名の皆さまにご参加いただきました。会津磐梯体操を会場にエコチル★ふくしま親子ふれあい会「すし早い夏休み」を開催しました。親子ふれあい会「すし早い夏休み」についてのお話など楽しく学び、充実した時間を過ごすことができました。

親子ふれあい会「すし早い夏休み」についてのお話など楽しく学び、充実した時間を過ごすことができました。

おやこでダンス教室を開催しました

2024年10月20日(日)、郡山市のAGCエレクトロニクス郡山カルチャーパークを会場に「エコチル★ふくしま おやこでダンス教室」を開催しました。たくさんの方から参加申込をいただき、ありがとうございました。

当日は調査参加者の方と親民の方を含め、35組97名の皆さまにご参加いただきました。まず展示室で「エコチル調査でわかったこと」のお話を聞いたあとアリーナに移動し、FSAダンススクールの先生から親子で楽しめるダンスを教わりました。最初は緊張がすごかったお子さんたちも、基礎から振付を覚えてもらい、最後は笑顔でいっぱいお話を動かすことができました。

福島ユニットセンターでは、調査に参加されていない親民の方にも広く調査のご協力や成果を知っていただくために、毎年こうしたイベントを開催しています。

2025年エコチルカレンダーが完成しました!

身長・体重を書き込める(成長記録メモ)や、エコチル調査からのお知らせ、エコチル★ふくしまnanacoカードのご利用方法などを掲載しております。

ぜひご利用ください!

第7回エコチル★ふくしま環境セミナーを開催しました!

日 時: 2025年2月15日(土) 10:30~11:20(予定)

会 場: 郡山市東山グリーンセンター

募集要員: 20組(一家族4名まで)

参加費: 無料

発行/エコチル調査福島ユニットセンター

エコチル★ふくしま

№.42

こぼちる通信

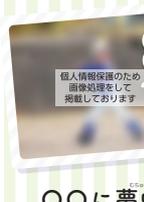
2025年春号

ちやーどん
ハエに夢中!
発表会に向けて
練習中よ!



個人情報保護のため
画像処理をして
掲載しております

じゅんぽん
フットボールに
夢中



個人情報保護のため
画像処理をして
掲載しております



個人情報保護のため
画像処理をして
掲載しております

のんぽん
パイオリンに夢中です。
小こからやっています。



あすりよん
大好きなゆいこに夢中。
写真、自分の名前の
いれこえています!

〇〇に夢中!! フォトコーナー



個人情報保護のため
画像処理をして
掲載しております

はせつとん
塩巻の作りかたに夢中
今度はお母さんで挑戦
予定です!

あつひとん
ニースに夢中!
4月10日まで!

次号より新たなコーナー開始!
詳しくは中面!

Topics
遠くで! 学んで! エコチル★キッズ!
★心が元気になるリラクゼーション方法について聞きました!
★2025年度小学6年生と保護者の皆さまへご案内
★小学学期検査が2025年3月から始まります!
★エコチル★ふくしまよりお知らせ
★あなたの川柳大募集!

エコチル★ふくしま 環境セミナー
★親子で挑戦! 自然と科学のふしぎinコミュニティ福島
★詳しくは先! あんなん! こと
★知っているですか? 野球肘検査
★nanacoカードのお知らせ
★ポイントの有効期限について

Japan Eco & Child Study

エコチル調査

おしえて先生! あんなんこと、こんなんこと

知っていますか?
野球肘検査について

福島県立医科大学 整形外科学講座
兼子 陽太 先生

Q: 野球肘ってなに?
A: 野球肘とは、成長期に野球を繰り返すことで起こる肘の障害です。成長期の骨軟骨は柔らかく、成人と比較して損傷しやすい特徴があります。野球肘は大きく「内側障害」と「外側障害」に分かれます。内側障害は肘の内側に野球ボールの圧力が加わり、骨や軟骨がはがれることで発生します。その程度は約40%で、痛みを伴います。投げる頻度やフォームがよくなると、骨の柔軟性が低下したり、フォームがよくなると発生することが原因と考えられています。外側障害(軟骨性軟骨炎)は、肘の外側に発生する力が加わり、軟骨(軟骨)がはがれることで発生します。その程度は1-3%で、初期には痛みがたつた病院を受診しますが、痛みが出る頃には手術が必要な状態となっている危険性があります。野球肘検査での早期発見が大切です。

Q: 野球肘ってなに?
A: 日本野球連盟が主催する「野球肘」というシステムがあります。登録すると「野球肘」IDが取得でき、連動する「野球肘」というサービスで、野球肘や肘関節データの蓄積、練習や結果の記録、ケガ予防ストレッチの指導などができます。利用するには事前に所属チームの「野球肘」への登録が必要で、その後に個人登録を行います。今後、大会参加時にシステムへの登録は必須となる予定です。興味がある方はぜひ所属チームに相談してみてください。

みんなの楽しい野球ライフを応援しています!

お知らせ

nanacoカードのお知らせ

2025年3月末にポイントの有効期限が切れてしまうものがあります!
お早めに電子マネーに交換してください!

現在小学6年生の参加者の皆さまへ
nanacoカードは交換の機会があります!
お知らせのチラシをご覧ください。詳しくはエコチル★ふくしまホームページをご覧ください。

転居ご予約の方へ
この春、お引越しされるご予約のある方は、ユニットセンターまでご連絡をお願いします。

エコチル調査は13歳以降も続いています!

13歳以降の要点
紙の履歴書「アプリ」を使用するWEB履歴書! 紙の履歴書は「アプリ」への登録不要! 好きなデザインの履歴書に合わせたお返事いただけます!
謝礼→アプリ内へポイントとして付与!
お戻りいただいたポイントは、アプリ内でお好きなアイテムとの交換が可能です。ポイント交換はアプリ内で確認してください。

小学6年生に
なると
13歳以降の調査に必要な履歴書(紙)を郵送でお返事いただけます。必ずお返事ください。

中学生の皆さまへ
アプリ内でお返事されたポイントには履歴書が不要です。アプリ内での履歴書が便利です。

※調査の一般的な内容に関するお問い合わせ先
●エコチル調査福島ユニットセンター(お問い合わせ先) 平日(土・日・祝日を除く) 9:00-17:00
●エコチル調査福島ユニットセンター(全国共通) 福島本部事務所(東北・関東地域) TEL. 024-547-1449
TEL. 0120-535-252 (受付時間: 9:00-22:00) 〒980-0225 福島県福島市下町(福島県立医科大学内)

※お問い合わせ先
●エコチル調査福島ユニットセンター(お問い合わせ先) 平日(土・日・祝日を除く) 9:00-17:00
●福島本部事務所(東北・関東地域) 郡山事務所(関東・中部・山梨・山梨地域) TEL. 024-983-4780
TEL. 024-983-4780 〒980-0225 福島県福島市下町(福島県立医科大学内)

環境省 国立環境研究所 福島県立医科大学

https://www.ecochil-fukushima.jp/ エコチル★ふくしま

こぼちる通信

遊んで! 学んで! エコチル★キッズ! vol.11

お話しを聞いた方
福島大学人間発達文化学類
安部 郁子 さん

心が元気になるリラクゼーション方法について聞きました

春になると卒業式や入学式、進級、進学など、新しいことがたくさん始まりますよね。ワクワクする気持ちもあるけれど、ちょっとドキドキしたり不安になったりするところもあるかもしれません。そんな時でも元気に過ごせるように、心もリラックスさせる3つの方法をお伝えします。

まずは、リラクゼーション

気分を楽にするおススメの方法。体の力をぬいて、ゆっくり息を吐いてみましょう。

<リラクゼーションの方法>

1. せすじをのびし、楽な姿勢で寝る
2. 耳にくっつくようにかたを上げる
3. すーんとかたを落としながら、息を吐く

深呼吸をしてみよう

1. おなかに手をあてる
2. 口からゆっくり長く息を吐く。(6つぞえする)

安心できる大人に話してみよう

心配なことや不安な気持ちを感じた時には、お父さんやお母さん、学校の先生に自分の気持ちを話してみよう。きっと気持ちが軽くなると思いますよ。

安部 郁子 さんからのメッセージ

4月から、新学期が始まります。先生が変わったり、クラス替えがあったりして、環境や人との関係が変わることがあるでしょう。そんな時は無理に我慢しなくても、我慢していても、いつかの「自分らしい」自分にならなくてもいいと思います。そんな時に、このリラクゼーション法を試してみてください。心がちょっとでも軽くなると思います。

2025年春号

小学生にできる! 新小学6年生を対象とした学期検査が、2025年3月から始まります!

対象(2013年度生まれ)の方には、案内資料を2月中旬頃より地区ごとに順次発送しています。

身体測定・CAT検査	血液検査	同日検査
● 身体測定 ● 体重測定 ● CAT検査	● 尿検査 ● 尿糖検査 ● 血糖検査 ● A.T検査	1日2つの検査の実施希望する方

謝礼 4,000円 / 謝礼 4,000円 / 謝礼 5,000円

2012年度生まれの小学6年生の皆さま、ご協力ありがとうございました!

あなたの山柳大募集!!

あなたの作った山柳を募集してませんか?
今年こそ 旗揚げ隊が 2重とび

エコチル★ふくしま環境セミナーを開催しました

2月15日(土)に郡山市喜久山フロンティアセンターで第7回エコチル★ふくしま環境セミナーを開催いたしました。体験型環境学習施設を見学し、「ごみ減量」や「気候変動対策」について楽しく学ぶことができました。環境セミナーの様子はエコチル★ふくしま公式YouTubeチャンネルにて、3月下旬動画公開いたします。ぜひご覧ください!

第8回エコチル★ふくしま環境セミナー 参加者を募集します!

親子で挑戦! 自然と科学のふしぎinコミュニティ福島

エコチル調査でわかること
たこの紹介

体験型環境学習施設
フロンティアセンター

コミュニティ福島 自然と科学のふしぎinコミュニティ福島

開催日 2025年7月13日(日) 10:00-12:30(予定)

参加費 無料

申込締切: 2025年3月14日(金)~6月12日(水)
※体験プログラムの内容はお持ち帰りいただけます。

編集・発行

公立大学法人 福島県立医科大学

エコチル調査 福島ユニットセンター 福島本部事務所

〒 960-1295 福島県福島市光が丘 1 番地
TEL 024-547-1447 FAX 024-547-1448

* お問い合わせ窓口 TEL 024-547-1449

エコチル調査 福島ユニットセンター 郡山事務所

〒 963-8025 福島県郡山市桑野 1 丁目 21 番 17 号
桑野共栄ビル 2 階

TEL 024-983-4750 FAX 024-983-4751

* お問い合わせ窓口 TEL 024-983-4780



福島ユニットセンターキャラクター 『こぼちる』について

福島を代表する民芸品、起き上がりこぼしをモチーフとし、
転んでも起き上がり、すくすくと元気に育つ子ども（赤ちゃん）
をイメージしています。事業名のエコチルを組み合わせ、
誰が見ても聞いても両方をイメージしやすい名前を付けました。
子どもたちの健やかな成長を願う想いが込められています。

